



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和元年度 事業概要



日本赤十字社 福島県支部
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

皆様の愛が、 赤十字の活動を支えています。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字は、「人道」「公平」「中立」「独立」「奉仕」「単一」「世界性」の7つの基本原則に則り、人間のいのちと健康、尊厳を守るための活動を展開します。私たち赤十字に従事する者は、相互に協力しながら、紛争や災害によっていのちと健康が脅かされている多くの人々に対する救援・救護活動に取り組みます。そして、それぞれの地域や学校等でボランティアの皆さんと一緒に創意ある活動を行います。



災害救護



救護看護師の養成



青少年赤十字（JRC）の育成



社会福祉活動

令和元年度・支部にお寄せいただいた
活動資金（社資）の総額

2億7,373万9,924円



救急法・健康生活支援講習等の普及



赤十字奉仕団



国際活動



東日本大震災復興支援事業



医療事業



血液事業

赤十字の活動資金にご協力をお願いします。

活動資金への協力方法

- 地域の自治会や町内会の中でご協力いただく方法。



- 最寄りの市町村／社会福祉協議会の赤十字の窓口へ申し込みいただく方法。



- 日赤の振込用紙でご協力いただく方法。(振込手数料無料)



◎日本赤十字社の創立記念日である5月1日から1ヵ月間は、赤十字運動月間として特に広く社員加入のご案内をしています。

(表1) ●日本赤十字社の表彰

表彰種別	表彰の基準	贈与される表彰品
特別社員	一時又は数次(10年以内)に2万円以上のご協力をいただいた方	特別社員称号贈与通知書、金色バッジ(個人のみ)、陶器製門標(個人のみ)
支部長感謝状	一時又は累計で10万円以上20万円未満のご協力をいただいた方	感謝状
銀色有功章	一時又は累計で20万円以上50万円未満のご協力をいただいた方	銀色有功章(楯)、陶器製門標(大)(個人のみ)、略章
金色有功章	一時又は累計で50万円以上のご協力をいただいた方	個人: 金色有功章、章記、略章 法人: 金色有功章(楯)、略章

※年間100万円以上のご協力については、上記以外の表彰もございますので、詳しくは当支部までお問合せ下さい。

特別社員	称号贈与通知書	金色バッジ	陶器製門標	日赤太郎	支部長感謝状	感謝状			
銀色有功章	楯	略章	陶器製門標	日赤太郎	金色有功章	金色有功章(男性用)	金色有功章(女性用)	章記	略章

(表2) ●日本赤十字社への社費や寄付金に適用される税制上の優遇措置(要旨)

納入者区分	区分	関係根拠法令	適用期間	措置の内容
個人	所得税の控除	所得税法第78条第2項第3号	通 年	寄付金の全額(ただし、上限は寄付者の年間所得総額の40%まで)から2千円を差し引いた額が、寄付者の年間所得総額から控除されます。
	個人住民税の控除	地方税法第37条の2及び同法施行令第7条の17	通 年 (募集金額上限に達した時点で終了)	総理大臣が毎年指定告示する日赤事業に対してなされる寄付金の全額(ただし上限は寄付者の年間所得総額の30%まで)から2千円差し引いた額の10%が寄付者の住民税額から控除されます。(居住地の都道府県支部に寄付の場合のみ適用)
	相続税の非課税	相続税特別措置法第70条	通 年	寄付した相続財産の価格は、相続人の納めるべき相続税の課税価格に算入されません。
法人	法人税の控除(指定寄付金)	法人税法第37条第3項第2号に基づく財務省告示	4月～9月 (募集金額上限に達した時点で終了)	財務大臣が毎年指定告示する日赤事業に対してなされる寄付金の全額が、法人の寄付金損金算入限度額にかかわらず損金の額に算入されます。
	法人税の控除(特定公益増進法人に対する寄付金)	法人税法第37条第4項	通 年	通常の寄付金の損金算入限度額とあわせて、別枠で算出した特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額が損金の額に算入されます。

は じ め に

赤十字事業の推進につきましては、平素から社員の皆様をはじめ、多くの県民の皆様からご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。

令和元年度は、東日本台風により、県内各地で甚大な被害が発生いたしました。福島県支部では、発災直後から医療救護班による避難所等での巡回診療のほか、避難所への救援物資の配付や義援金受付などを行いました。また、県内の各赤十字奉仕団においては、避難所での炊き出しなど様々な被災者支援活動が行われました。

東日本大震災及び原発事故から9年余が経過し、復興に向けた拠点施設整備が進められる中、現在も多くの方々が避難生活を続けておられます。

当支部では、震災直後から被災者に寄り添った支援を復興支援活動として推進してまいりましたが、今後はさらにボランティアによる高齢者支援活動や地域災害対応能力強化につなげる防災教育等の実践活動を通じ、奉仕団組織基盤の強化及び地域活動を担える人材育成にも努めてまいります。

当支部が進める事業の財源は、県民の皆様からお寄せいただく活動資金（社資）であります。令和元年度におきましては、県内各地区・分区をはじめ、有功会、奉仕団等赤十字関係者によるご努力とご支援、そして県民や法人の皆様のご協力により、目標額を上回ることができました。皆様に心から感謝を申し上げます。

平成31年1月に新築移転した福島赤十字病院では、県民のいのちと健康を守るため、救急医療、地域医療、災害医療の中核として、より質の高い医療の提供に引き続き努めてまいります。現在は、新型コロナウイルス感染症の感染者を受け入れ、医師や看護師たちが一丸となって対応にあたっております。

福島県赤十字血液センターでは、積極的に若年層への普及啓発を目的とした献血セミナーの開催や輸血の安全性を高める400mL献血の推進、医療ニーズに即した血液の安定確保と安定供給に努めてまいります。

令和元年7月に開催した支部創立130周年記念「福島県赤十字大会」は、創立以来、多くの県民の皆様による温かなご支援とご協力によって支えられていることを改めて認識した有意義な大会となりました。

今後も引き続き赤十字の「人道・博愛」の精神に基づき、新型コロナウイルス感染症への対応に取り組むとともに、県民福祉の向上に貢献できる各種事業を推進してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和2年10月

日本赤十字社福島県支部

目 次

1 災害救護	1
1 災害救護	1
2 救護員の登録	3
3 救護訓練及び研修	5
4 災害弔慰金の贈呈	6
5 救援物資の配分	6
6 災害義援金受付状況（支部受付分）	6
7 赤十字防災ボランティアの養成	7
8 救護資材	7
2 救護看護師の養成	10
1 奨学金貸与	10
2 日本赤十字秋田看護大学、赤十字特別推薦	10
3 救急法・健康生活支援講習等の普及	11
1 講習会の実施状況	11
2 講習会の開催（合計）	13
3 講習会受講者内訳	13
4 青少年赤十字（JRC）加盟校を対象とした救急法等講習会	13
5 防災セミナー	14
6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力	14
7 県との連携事業「親子で学ぶ防災セミナー」の開催	14
8 会議・研修会	15
9 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数	15
10 救急法等講師名簿	15
4 赤十字奉仕団	16
1 結成状況	16
2 方部赤十字奉仕団連絡協議会	16
3 赤十字奉仕団指導講師	16
4 会議、研修会	16
5 協力	17
6 令和元年度赤十字奉仕団委員長会議	17
7 令和元年度青年赤十字奉仕団第1ブロック協議会統一キャンペーン	18
8 令和元年台風第19号等豪雨災害における赤十字奉仕団の主な活動	18
5 青少年赤十字（JRC）の育成	21
1 加盟学校数とメンバー数	21
2 青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数	21
3 青少年赤十字研究推進校の指定	23
4 令和元年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員	23

5	令和元年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員・各地区指導者協議会長	23
6	会議、研修会	24
7	県内トレーニングセンターの開催	24
8	指導者研修会・講習会等の開催	25
9	福島県青少年赤十字賛助奉仕団	25
10	青少年赤十字防災教育プログラムの普及	26
11	青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集	27
12	青少年赤十字国際交流事業	28
6	社会福祉活動	29
1	高齢者福祉対策事業	29
2	保健衛生事業	29
3	地域高齢者生活支援活動	29
7	国際活動	30
1	第一ブロック支部による国際活動への参加	30
2	救援金受付状況（福島県支部取扱分）	30
3	NHK 海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）	30
4	支部職員の国際開発事業地（ルワンダ）への派遣	31
5	安否調査	31
8	広報資料	32
1	日赤本社刊行物の配布	32
2	支部発行物の作成配布	32
3	ホームページ等の開設	33
4	新聞・テレビ・ラジオ広報	33
9	東日本大震災復興支援事業	34
1	復興支援「赤十字にこにこ健康教室」の実施	34
2	復興支援「赤十字救急法等講習会」	34
3	地区・分区及び赤十字奉仕団による支援事業	35
4	赤十字スポーツ・レクリエーション	36
5	被災学校支援	36
6	「青少年赤十字 詩・100文字」作品募集（再掲）	36
7	「青少年赤十字 防災教育プログラム」（再掲）	37
8	国際交流事業「フィリピンメンバー招致」（再掲）	37
9	復興支援活動広報事業	37
10	医療事業	38
1	医療施設	38
2	診療科	38
3	病床数と職員数	38
4	患者数	38
5	紹介患者数	38

6	救急車両による搬入患者数	39
7	医療機器の整備（令和元年度分 主なもの）	39
8	訪問看護ステーションの運営	39
9	各種教室及び相談	39
11	血液事業	40
1	施設	40
2	献血及び供給	40
3	献血の状況	40
4	血液製剤供給の状況	41
5	推進会議等の開催	41
6	献血思想の普及啓発・行事	42
7	骨髄ドナー登録者の受入状況	43
8	第55回献血運動推進全国大会における表彰	43
9	日本赤十字社有功章社員等贈与規則に基づく表彰	43
12	評議員会	45
13	業務監理執行及び会計の監査	45
14	福島県支部創立130周年記念福島県赤十字大会	46
15	赤十字社員増強運動	48
1	赤十字社員増強運動の推進と成果	48
2	表彰	50
3	優良地区・分区の表彰	54
4	地区有功会の結成状況	54
5	日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等	55
6	組織振興課関係会議・研修会等	55
16	会計報告	56
1	令和元年度一般会計歳入歳出決算報告	56
2	令和元年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告	56
17	日本赤十字社福島県支部役員名簿	57
資料編		58
	令和元年度日本赤十字社福島県支部現勢	58

1

災害救護

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字としての本来の使命に根ざした重要な活動であり、国際的にはジュネーブ諸条約や赤十字国際会議の決議に基づき、国内では日本赤十字社法及び同定款に基づき行われている。

また、災害救助法において国及び都道府県の救助活動に協力する義務が規程され、その具体的内容については「内閣府（防災担当）との協定」により取り決めがなされている。さらに、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられている。

これらを踏まえ、日本赤十字社は救護規則、防災業務計画等を定め、医療救護、救援物資の備蓄及び配分、血液製剤の供給、義援金の受付及び配分、その他応急対応に必要な業務のほか、復旧・復興、防災・減災に関する業務を行っている。

令和元年度、当支部は本県を襲った台風第19号に伴う災害やクルーズ船内で発生した新型コロナウイルス感染症患者の救護活動を行ったほか、災害に備え、救護員の確保や訓練・研修の実施、救護資機材の整備等、救護体制の充実強化に努めた。

1 災害救護

ア 令和元年東日本台風

令和元年10月12日から13日にかけて福島県を襲った台風第19号は、死者32人、住家被害が2万棟以上に及ぶなど本県に甚大な被害をもたらした。

本災害に対し、福島県支部では、他支部の応援を得ながら医療救護班を派遣したほか、在宅被災者の訪問活動や避難所での心のケア活動、救援物資の配付などの救護活動を実施した。また、県内の赤十字奉仕団が炊き出しなど様々な支援活動を自主的に実施した。

(1) 救護班等の活動【救護班数：19班】

活 動 日	病 院 名	班数	派 遣 先	活 動 内 容
10月13日	福島赤十字病院 DMAT	1	田村市・伊達市	病院支援・患者搬送
10月13日	福島赤十字病院	1	伊達市	患者搬送
10月14日	福島赤十字病院	1	伊達市	避難所アセスメント・巡回診療
10月14日	福島赤十字病院	1	相馬市・新地町	病院・避難所アセスメント
10月15日	福島赤十字病院 DMAT	1	福島県保健医療福祉調整本部	本部活動
10月15日	福島赤十字病院	1	相双地区・伊達市	施設アセスメント・巡回診療
10月16日	福島赤十字病院	1	相双保健福祉事務所	アセスメント
10月16日～18日	米沢市立病院	1	本宮市	避難所アセスメント・巡回診療
10月16日～18日	長岡赤十字病院	1	須賀川市・いわき市	避難所アセスメントほか
10月18日～21日	相模原赤十字病院	1	本宮市	避難所巡回診療
10月21日	福島赤十字病院	1	本宮市	避難所巡回診療
10月22日	福島赤十字病院	1	本宮市	避難所巡回診療
10月23日～25日	前橋赤十字病院	1	いわき市	救護所設置
10月24日	福島赤十字病院	1	伊達市	避難所巡回診療
10月25日	福島赤十字病院	1	本宮市	避難所巡回診療
10月28日	福島赤十字病院	1	伊達市	避難所巡回診療
10月29日	福島赤十字病院	1	本宮市	避難所巡回診療
10月31日	福島赤十字病院	1	伊達市	避難所巡回診療
11月1日	福島赤十字病院	1	本宮市	避難所巡回診療

(2) 日赤災害医療コーディネートチームの活動【チーム数：4班】

活動日	病院名	班数	派遣先	活動内容
10月14日	福島赤十字病院	1	福島県保健医療福祉調整本部	相双地区アセスメント
10月15日～17日	日赤医療センター	1	福島県保健医療福祉調整本部	コーディネート業務
10月17日～19日	日赤医療センター	1	福島県保健医療福祉調整本部	コーディネート業務
10月19日～21日	日赤医療センター	1	福島県保健医療福祉調整本部	コーディネート業務

(3) こころのケア活動【チーム数：5班】

活動日	メンバー	人数	派遣先	活動内容
11月21日	支部・病院看護師、ボランティア	4	伊達市梁川寿健康センター避難所	傾聴・リラクゼーション
11月28日	支部・病院看護師、ボランティア	3	伊達市梁川寿健康センター避難所	傾聴・リラクゼーション
12月5日	支部・病院看護師、ボランティア	3	伊達市梁川寿健康センター避難所	傾聴・リラクゼーション
12月10日	支部・病院看護師、ボランティア	3	伊達市梁川寿健康センター避難所	傾聴・リラクゼーション
12月17日	支部・病院看護師、ボランティア	3	伊達市梁川寿健康センター避難所	傾聴・リラクゼーション

(4) 保健師に帯同した被災者健康支援活動

活動日	病院名	人数	派遣先	活動内容
10月18日	福島赤十字病院	7	伊達市	避難者のアセスメント
10月15日～17日	日本赤十字社福島県支部	2	伊達市	在宅被災者の家庭訪問

(5) 福島県保健医療福祉調整本部等への職員の派遣

10月13日から25日まで、福島県庁等に職員を派遣し情報収集や連絡調整業務にあたった。

(6) 福島県支部災害対策本部への支援員

活動日	派遣元	人数	活動場所
10月16日～18日	新潟県支部	1	福島県支部・福島県保健医療福祉調整本部
10月16日～19日	本社	2	福島県支部・福島県保健医療福祉調整本部
10月19日～21日	本社	2	福島県支部・福島県保健医療福祉調整本部

(7) 救援物資の配付

救援物資	毛布	緊急セット	バスタオル
配付数	1,767	171	362



避難所の巡回診療をする福島赤十字病院救護班（本宮市）



避難所の巡回診療をする福島赤十字病院救護班（伊達市）



イ クルーズ船内における新型コロナウイルス感染症への対応

厚生労働省からの派遣依頼を受けた日赤本社、厚生労働省 DMAT 事務局からの派遣要請に応え、横浜港に停泊したクルーズ船（ダイヤモンド・プリンセス号）に救護班や DMAT（災害派遣医療チーム）を派遣した。また、感染症指定医療機関である福島赤十字病院で、感染者の受け入れを行った。

（1）救護班

乗客乗員の医療、健康管理を行う船内メディカルセンターの支援活動を実施

活動日	病院名	人数	活動場所
2月18日～20日	福島赤十字病院	5	クルーズ船内メディカルセンター

（2）DMAT

乗客乗員の医療、感染者の搬送や医療本部活動を実施

活動日	病院名	人数	活動場所
2月14日	福島赤十字病院	5	クルーズ船内メディカルセンター等
2月18日	福島赤十字病院	5	クルーズ船内メディカルセンター等
2月19日～21日	日本赤十字社福島県支部	1	現地医療本部等



クルーズ船 ダイヤモンド・プリンセス号



船内診察室で活動する福島赤十字病院救護班

2 救護員の登録

災害に備えて救護班8班を常備し、毎年度更新登録している。（令和2年3月31日現在）

ア 救護員の登録

	医師	看護師長	看護師	主事	助産師	薬剤師	災対本部要員	血液供給要員	合計
日本赤十字社福島県支部				6			5		11
福島赤十字病院	35	23	94	67	3	18	12		252
福島県赤十字血液センター			1	4			9	16	30
合計	35	23	95	77	3	18	26	16	293

イ 令和元年度常備救護班編成表

	第1救護班	第2救護班	第3救護班	第4救護班
医師	守谷 新（病院）	紺野 直紀（病院）	井上 卓哉（病院）	鈴木 恭一（病院）
看護師長	渡邊あゆみ（病院）	車田 真美（病院）	安達 明美（病院）	武井 明美（病院）
看護師	鈴木 牧子（病院）	柳田 美穂（病院）	泉 弘子（病院）	三浦 愛（病院）
	三浦 将克（病院）	武田 良平（病院）	山口 広夢（病院）	田島 一樹（病院）
主事	菅野 正幸（病院）	金原 昭世（病院）	島村 健翔（病院）	山名慎一郎（病院）
	相楽 孝行（病院）	吉田 憲治（病院）	佐藤 竜馬（病院）	玉根 勇樹（病院）



1 災害救護

	第5救護班		第6救護班		第7救護班		第8救護班					
医 師	籠島 彰人（病院）		伊藤 史浩（病院）		出羽 明子（病院）		佐藤 法義（病院）					
看護師長	國分 花子（病院）		小林 洋子（病院）		菅野いづみ（病院）		石田 久江（病院）					
看 護 師	清和 彩子（病院）		原田 瑞穂（病院）		移川 美穂（病院）		長沢 恵（病院）					
	高橋 健太（病院）		渡邊 義文（病院）		菅野 勇勝（病院）		江畑 聖也（病院）					
主 事	池田 久光（病院）		渡辺 源貴（病院）		金子 瑛（病院）		二階堂雄平（病院）					
	藤橋 伸弘（病院）		三浦 友輔（病院）		小河原貴之（病院）		村上 風太（病院）					
薬剤師	我妻 禎		緑上 淳一		渡部 寿康		川村 早苗		佐藤 南		齋藤可奈子	
	二瓶 瑤子		酒井 亮		菊池 洋平		安齋 英里		古賀 彩織		大竹麻衣子	
	小野優紀恵		武藤 芳和		佐藤 綾香		黒田 彩佳		矢葺 優佳			
支部 連絡調整員	石田 政幸		久保 芳宏		松本 琢也		出口 智美		野崎 謙司		相澤真理子	
	高橋 郁弥		徳井 優舞									
こころのケア 指導者	岩崎 睦子（支部）		高根 晴美（病院）		國分 花子（病院）		成澤 裕美（病院）					
	武田 玲子（支部）		菅野 直樹（病院）		武田 里美（病院）							

ウ 日本 DMAT 登録者

医 師	渡部 洋一（統括 DMAT）			市川 剛		遠藤 豪一		渡部 研一		中村耕一郎	
看 護 師	奈良輪弘美		泉 弘子	原田 瑞穂	渡邊あゆみ	鈴木 安英	萩原 暁美				
	梅宮 誠		武田 良平	荒木 美和	鈴木 直人	田島 一樹					
業務調整員	渡部 寿康		久保 芳宏	橋本 健一	野田 誠	野地 幸次	葛岡 大輔				
	野崎 謙司		松本 琢也								

エ 福島県 DMAT 登録者

看 護 師	石田 久江	朝倉 恵実	山口 広夢	北村 慶
業務調整員	酒井 亮	山名慎一郎	佐藤 隆昭	渡辺 源貴

オ 日赤災害医療コーディネートチーム

	氏 名	任 命 職		氏 名	任 命 職
医 師	渡部 洋一	災害医療コーディネーター	医 師	遠藤 豪一	災害医療コーディネーター
医 師	渡部 研一	災害医療コーディネーター	医 師	市川 剛	災害医療コーディネーター
看 護 師	野地 啓子	コーディネートスタッフ	看 護 師	安達 明美	コーディネートスタッフ
看 護 師	渡邊あゆみ	コーディネートスタッフ	事務職員	久保 芳宏	コーディネートスタッフ
事務職員	野田 誠	コーディネートスタッフ			

カ 福島県災害医療コーディネーター（平成29年3月23日～）

渡部 洋一 久保 芳宏

キ 日赤原子力災害アドバイザー

中村耕一郎 海藤 隆紀

ク 原子力災害時医療中核人材研修修了者

医 師	中村耕一郎									
看 護 師	成澤 裕美	小林 洋子	岩崎 睦子	鈴木 牧子	黒沢真由美	清和 彩子				
	柳田 美穂									
診療放射線技師	海藤 隆紀	玉根 勇樹								



3 救護訓練及び研修

ア 災害救護訓練

名 称	月 日	会 場	参加者（人）
①福島市総合防災訓練	5月11日(土)	福島市	支部3、病院5
②阿武隈川上流総合水防演習	5月26日(日)	郡山市阿武隈川 河川敷	支部3、病院6
③日赤福島県支部災害救護訓練	7月13日(土)	福島県支部	日赤病院47、血セ5、支部9、大 原病院11、わたり病院1、済生会 病院4 計77
④福島県支部奉仕団合同災害救 護訓練	7月20日(土)・21日(日)	大玉村	支部4、防災支援奉53、地域奉 28、分区1 計86
⑤大規模地震時医療活動訓練（政 府総合防災訓練）	9月7日(土)	埼玉県、千葉県	病院5、支部1（スタッフ）
⑥福島県多数傷病者対応訓練	10月7日(月)	広野町、富岡町	病院6
⑦福島県総合防災訓練	10月26日(土)	いわき市	令和元年東日本台風の影響により 中止
⑧第1ブロック支部合同災害救 護訓練	10月30日(水)・31日(木)	岩手県	中止
⑨東北ブロック DMAT 参集訓練	11月2日(土)・3日(日)	新潟県	病院4、支部2（スタッフ1）
⑩福島県原子力防災訓練	11月16日(土)	田村市	令和元年東日本台風の影響により 中止
⑪国民保護実動訓練	11月20日(水)	福島市	中止
⑫日赤福島県支部救護班要員主 事訓練	令和2年1月18日(土)	福島県支部	病院11、血セ1、支部4、大原病 院1、わたり病院5



訓練（阿武隈川上流総合水防演習）



訓練（主事訓練）

イ 研修会・会議

名 称	月 日	会 場	参加者（人）
①東北ブロック DMAT 技能維持研修	5月13日(月)・14日(火)	青森市	病院1、血セ1
②第1ブロック支部事業推進課長会議	6月18日(火)・19日(水)	秋田県支部	支部1
③救護業務担当課長会議	6月27日(木)	日赤本社	支部1
④第1回原子力災害医療アドバ イザー会議	7月10日(水)・11日(木)	日赤本社	病院2
⑤全国赤十字救護班研修会	7月14日(日)～16日(火)	日赤本社	病院3
⑥防災教育事業指導者養成研修	7月26日(金)～28日(日)	日赤本社	支部2
⑦原子力災害時医療中核人材研修	7月31日(水)～8月2日(金)	福島市	病院3
⑧東北ブロック DMAT 技能維持研修	8月28日(水)・29日(木)	福島市	病院9、支部1（スタッフ）
⑨福島県 CBRNE 研修	9月14日(土)	福島市	病院1、支部2（スタッフ1）
⑩日赤災害医療コーディネート研修会	9月15日(日)	福島市	支部1（スタッフ）
⑪ DMAT 隊員養成研修	9月24日(火)～26日(木)	立川市	支部1、病院2
⑫福島県原子力災害医療連携ネット ワーク主催フォローアップ研修会	10月5日(土)	福島市	支部1
⑬福島県災害救急医療マニュアル 検討部会	10月9日(水)	福島市	支部1、病院1

名 称	月 日	会 場	参加者 (人)
⑭福島県立総合衛生学院災害救護実習受入れ	11月6日(水)	福島県支部	支部3、病院1、学生30、教員2
⑮福島県 DMAT 隊員養成研修会	11月30日(土)~12月1日(日)	福島市	病院6、支部1 (スタッフ)
⑯災害派遣セミナー	12月1日(日)	福島市	支部1 (講師)
⑰日赤災害医療コーディネート研修会	12月7日(土)・8日(日)	日赤本社	病院1、支部2 (スタッフ1)
⑱第2回原子力災害医療アドバイザー会議	12月12日(木)・13日(金)	日赤本社	病院2
⑲ DMAT 隊員養成研修	令和2年1月8日(水)~10日(金)	立川市	支部1
⑳東北ブロック DMAT 技能維持研修	1月11日(土)・12日(日)	仙台市	病院3、支部1 (スタッフ)
㉑全国赤十字救護班研修会	2月1日(土)~3日(月)	東京都支部	病院1、支部1 (スタッフ)
㉒救護員のためのこころのケア研修会	2月1日(土)	日赤病院	病院19 (スタッフ病院5、支部1)
㉓災害派遣福祉チーム員スキルアップ研修	2月4日(火)~6日(木)	郡山市	病院1
㉔原子力災害派遣医療チーム研修	2月24日(祝月)	日赤病院	病院5、支部1
㉕日赤原子力災害対応基礎研修会	3月7日(土)・8日(日)	福島市	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

4 災害弔慰金の贈呈

火災並びに自然災害等による死亡者の遺族代表者に弔慰金10,000円を贈る。

	件 数	金 額
弔 慰 金	12件	120,000円

5 救援物資の配分

「支部災害救援物資取扱要綱」に基づき、以下のとおり配布した。

	前年度繰越	本社等受入	購入	戻入等	被害者への配分	他支部への払出	転用等	本年度未残数
本 社								
バスタオル	2,172				549			1,623
毛 布	5,855				1,558			4,297
緊急セット	3,355				375			2,980
安眠セット	540				526			14
タオルケット	100							100

6 災害義援金受付状況 (支部受付分)

(令和2年3月31日現在)

ア 東日本大震災義援金 ※ () 内は累計

義 援 金 名	件 数	金 額
東日本大震災義援金	25件 (2,183件)	1,201,132円 (累計821,286,939円)

イ その他災害 ※ () 内は累計

義 援 金 名	件 数	金 額
①平成28年熊本地震災害	11件 (1,078件)	48,978円 (累計142,657,789円)
②平成29年7月5日からの大雨災害義援金	7件 (165件)	22,418円 (累計 15,341,008円)
③平成30年7月豪雨災害義援金	21件 (549件)	343,190円 (累計 62,043,138円)
④平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	40件 (388件)	557,868円 (累計 33,584,782円)
⑤令和元年8月豪雨災害義援金	173件	1,963,371円
⑥令和元台風第15号千葉県災害義援金	201件	6,110,064円
⑦令和元台風第19号災害義援金	635件	54,026,253円

※ 災害義援金は、被災都道府県に設置される災害義援金配分委員会を通じて被災者へ全額配分されます。



7 赤十字防災ボランティアの養成

ア 福島県支部奉仕団合同災害救護訓練

防災支援奉仕団と地域奉仕団と共に災害時に活動できるよう「福島県支部奉仕団合同災害救護訓練」を県内持ち回りで、毎年開催している。

名 称	月 日	会 場	参加者（人）
福島県支部奉仕団合同災害救護訓練	7月20日(土) 21日(日)	大玉村農村環境改善センター	支部4、防災支援奉53、地域奉28、分区1 計86

イ 防災ボランティアのためのこころのケア研修

名 称	月 日	会 場	参加者（人）
防災ボランティアこころのケア研修会 (一般県民対象)	6月21日(金)	福島県支部	中止

ウ 登録者数

防災ボランティアリーダー 10名

防災ボランティア地区リーダー 144名

8 救護資材

ア 県支部保有の主な救護資材

(令和2年3月31日)

資 材 名	支部	病院	地区区分	資 材 名	支部	病院	地区区分
移 動 式 炊 飯 器	6組		331組	// (1.5間 × 2 間)	4張		241張
医 療 セ ッ ト		2組		エアータント(4m × 5m)	2張	1張	
携 帯 用 医 療 セ ッ ト	1個			// (6m × 6m)	2張		
携 帯 用 救 護 カ バ ン	2個	3個		ワンタッチテント(3m × 6m)	5張		292張
医療資器材携行用カバン	16個			ドラッシュテント(フレームテント) XB	1張		
ノ ー ト 型 パ ソ コ ン	2台	3台		ドラッシュテント(フレームテント) MX	1張		
モバイルプリンター	1台			折 り た た み 寝 台	42台	40台	121台
プ ロ ジ ェ ク タ ー	1台			担 架 ベ ッ ド	2台		
折 り た た み い す	10台			患 者 用 毛 布	50枚	50枚	
診 察 台	2台			携 帯 ト イ レ	3個		
ト リ ア ー ジ シ ー ト	1組	1組		ト イ レ 用 テ ン ト	1張		
担 架	14台		79台	ス ト ー ブ	4台		
ヘ ッ ド ラ ン プ	27台			救 護 所 用 冷 暖 房 機 器	2台		
災害救援用ハンドビーム	2台			救 護 員 作 業 衣 (夏 用)	20着	50着	
ラ ン タ ン (15W)	4台	6台		// (冬 用)	20着	50着	
ラ ン タ ン ス タ ン ド	4台	1台		ヘルメット	15個	25個	203個
投 光 器	9台		20台	雨 具	98着	25着	
移 動 発 電 機	14台			防 寒 衣	16着		
天 幕 (3 間 × 2 間)	12張		7張	防 寒 服 (上 ・ 下)	30着		

資 材 名	支部	病院	地区区分
ダウングジャケット	25着	20着	
編 上 靴	82足	53足	
半 長 靴	9足	11足	
防 じ ん ゴ ー グ ル	12個	6個	
寝 袋	25個		
キャンピングマット	27枚		
携 行 バ ッ グ	20個	40個	
携行キャリアバッグ	16個	24個	
救 護 資 材 倉 庫			193棟
ローラーコンベア（電動）	5台		
〃 （手動）	1台		
ハ ン ド リ フ ト	2台		
救 急 車	1台	2台	
医 療 派 遣 用 自 動 車	1台	1台	
災 害 救 援 車	9台		113台
普 通 自 動 車	1台		
折りたたみ自転車	1台		
4 折 テ ー ブ ル	4台		
折りたたみリヤカー	1台		
超短波無線機（157MHZ）基地局	1局		
地 上 移 動 局	16局	3局	
超短波無線機（415MHZ）基地局	1局		
地 上 移 動 局	18局	8局	
小電力トランシーバー	12台		
携帯電話・データ端末	8台		

資 材 名	支部	病院	地区区分
衛 星 携 帯 電 話	6台	5台	
〃 （可換型）	（3台）	（3台）	
〃 （車 載）	（3台）	（2台）	
メ ガ ホ ン（拡声器）	8台		
携 帯 ラ ジ オ	9台		
液 晶 テ レ ビ	1台		
電 子 血 圧 計	1台		
医 療 セ ッ ト 置 台	3台		
点 滴 ス タ ン ド	5台		
A E D ー 式	4台		
A E D（携帯用）一式	6台	1台	112台
災害救護活動用ベスト			245着
D M A T 装 備 ー 式		1式	
NBC災害対応除染セッケー式	1式		
防 護 服 セ ッ ト	58組		
デジタル個人線量計	38個	20個	
空間線量率測定用サーベイメータ		1台	
身体汚染スクリーニング用GMサーベイメータ		1台	
救 護 用 ヒ ッ プ バ ッ グ	5個	15個	
反 射 チ ョ ッ キ	40着	20着	
担 架 置 台	5組		
救 命 胴 衣	6着		24着
防災ボランティア雨具	50着		
台 車	1台	1台	
アコーディオンスクリーン	2台		

イ 災害救護装備の充実

災害救援物資の輸送等のため各地区・分区に120万円を上限に赤十字救援車購入の経費の一部を補助した。

◎災害救護装備

赤十字救援車配置（助成）	4台	①福島市飯坂分区 ③塙町分区	②鏡石町分区 ④会津若松市地区北会津
--------------	----	-------------------	-----------------------

◎災害救護装備の整備

災害用無線機の更新	4台	陸上移動局（スプリアス規格対応機器）
赤十字救護員作業衣等の整備		
（1）点滴台	3台	
（2）作業衣（Tシャツ）	200着	
（3）ヒップバッグ	20個	



◎東日本大震災復興支援事業

海外救援金を財源とした東日本大震災復興支援事業として、福島県内の防災力を強化するため、地区・分区に災害用資機材を配備した。

復興支援事業による災害用資機材の整備

赤十字福祉車両	2	双葉町 1、檜葉町 1
救護資材倉庫	3	須賀川市地区 1、郡山市中田分区 1、平田村分区 1
倉庫用赤十字マークシール	1	北塩原村分区 1
移動炊飯釜セット（アルミ製蓋付）	9	郡山市安積分区 3、猪苗代分区 1、会津坂下町分区 1、湯川村分区 1、南相馬市地区 3
バーナーのみ	3	鏡石町分区 1、古殿町分区 1、西会津町分区 1
調整器付きガスホース	1	郡山市逢瀬分区
アルミ製蓋	3	泉崎村分区 1、会津坂下町分区 2
ワンタッチテント	26	福島市地区 2、福島市信陵分区 1、福島市吉井田分区 1、福島市立子山分区 1、福島市飯坂分区 1、二本松市岩代分区 1、二本松市東和分区 1、郡山市地区 2、郡山市逢瀬分区 1、郡山市三穂田分区 1、郡山市喜久田分区 1、郡山市安積分区 4、白河市表郷分区 1、喜多方市熱塩加納分区 1、いわき市久之浜大久分区 1、いわき市遠野分区 1、鏡石町分区 1、平田村分区 1、猪苗代町分区 2、会津坂下町分区 1、湯川村分区 1、会津美里町分区 1、飯館村分区 1
ワンタッチテント天幕	2	小野町分区 1、西郷村分区 1
ワンタッチテント用袋	1	小野町分区 1
ワンタッチテント横幕	6	喜多方市地区 3、天栄村分区 1、猪苗代町分区 2
おもり（20kg ラバーコーティング）	234	福島市地区 12、福島市蓬萊分区 12、福島市吉井田分区 6、福島市信陵分区 6、福島市立子山分区 12、福島市飯坂分区 6、福島市吾妻分区 6、二本松市岩代分区 12、二本松市東和分区 6、郡山市安積分区 24、郡山市三穂田分区 6、郡山市逢瀬分区 24、郡山市喜久田分区 6、白河市表郷分区 6、いわき市川前分区 12、いわき市久之浜大久分区 6、平田村分区 12、泉崎分区 6、猪苗代町分区 12、西会津町分区 12、会津坂下町分区 6、湯川村分区 6、会津美里町分区 6、飯館村分区 6、葛尾村分区 6
AED（本社共同購入）	6	福島市渡利分区 1、福島市清水分区 1、桑折町分区 1、鏡石町分区 1、会津坂下町分区 1、川内村分区 1
発電機	3	県中地区 1、柳津町分区 1、川内村分区 1
LED 投光器＋三脚	1	川内村分区 1

2

救護看護師の養成

国際的な救護活動、高齢社会への適切な対応ができる優れた看護師を養成するため、赤十字理念を建学の精神としている日本赤十字看護大学等で学び、赤十字に対し深い理解と熱意をもつ学生に奨学金を貸与し、救護看護師を養成している。

① 奨学金貸与

(人)

学 校 名	1 年	2 年	3 年	4 年	計
日本赤十字秋田看護大学	2	4	4	4	14
日本赤十字看護大学	—	1	—	—	1
日本赤十字北海道看護大学	1	—	—	—	1
合 計	3	5	4	4	16

※ 奨学金貸与額：年間60万円（月額5万円）を上限として貸与している。

② 日本赤十字秋田看護大学、赤十字特別推薦

日赤秋田看護大学に入学を希望し、福島赤十字病院に看護師として就職を希望する高校生を対象に選考会を行い、福島県支部長より推薦した。（令和2年4月入学）

支部長特別推薦選考会 10月15日(火)

応募者 3人

推薦者 3人

合格者 3人



3

救急法・健康生活支援講習等の普及

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、講習をととして救急法等の普及に取り組んでいる。

当支部においても、「救急法」「水上安全法」「幼児安全法」「健康生活支援講習」の各講習を実施し、事故防止や人命を救う方法、健康で安全に暮らすための知識と技術の普及に努めている。

防災への関心が高まるなか、防災セミナー、災害時の高齢者生活支援や乳幼児支援など災害に備えた内容の普及もすすめているほか、東日本大震災復興支援事業として避難を余儀なくされている方々の安全や健康維持のための救急法等講習会も引き続き実施した。

また、より多くの県民の皆さまへの普及を図るため、県内各地で実施されるイベント会場に救急法等の体験コーナーなども設けている。

1 講習会の実施状況

ア 救 急 法

日常生活における事故防止の知識と、思わぬ事故や急病の人を医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当などの知識と技術を普及している。

心肺蘇生、AED（自動体外式除細動器）の使い方、気道異物除去の方法を学ぶ救急法基礎講習（4時間）を実施し、さらに修了者に、きずの手当、骨折の手当、搬送法を学ぶ救急員養成講習（12時間）を実施している。



救急法

講 習 種 別	実施回数（回）	受講者数（人）	修了者数（人）	養成者数（人）
救 急 法				
基礎講習（4時間）	24	588	558	558
救急員養成講習（12時間）	12	233	233	231
短期講習	194	8,523	—	—
計	230	9,344	791	789

イ 水上安全法

水と親しみ水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、救命手当などの知識と技術を普及している。救急法基礎講習（4時間）修了者を対象にプールで基本技術を学ぶ水上安全法救助員Ⅰ養成講習（14時間）を実施した。しかし自然海域での事故防止を目的とした海で実施する救助員Ⅱ養成講習（12時間）は、令和元年度も東日本大震災及び原発事故の影響により、実施できなかった。



水上安全法

講 習 種 別	実施回数（回）	受講者数（人）	修了者数（人）	養成者数（人）
水上安全法				
救助員養成Ⅰ（14時間）	1	18	18	16
救助員養成Ⅱ（12時間）	0	0	0	0
短期講習	15	570	—	—
計	16	588	0	0

ウ 幼児安全法

幼児期に起こりやすい事故とその予防、万一事故が起きた場合の心肺蘇生法と AED の使い方、気道異物除去など救命手当及び応急手当の仕方、かかりやすい病気と看病の仕方などの知識と技術を普及している。

短期講習「災害時の乳幼児支援」においては、バンダナ、レジ袋を使用したきずの手当てを行い好評である。

また、指導員養成講習を9日間にわたって開催し、10名の指導員が誕生した。

講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
幼児安全法	指導員養成講習(30時間)	1	11	10	10
	支援員養成講習(12時間)	2	32	32	32
	短期講習	26	562	—	—
	計	29	605	42	42



幼児安全法



健康生活支援講習

エ 健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を、すこやかに過ごすために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援、自立に向け役立つ介護技術を普及している。超高齢社会において自分の健康づくりとボランティア活動に生かせるよう支援活動に重点をおいている。

「認知症サポーター養成講座」と「健康生活支援講習支援員養成講習」は、福島市と共同開催し、地域のボランティア活動につながることが期待される。

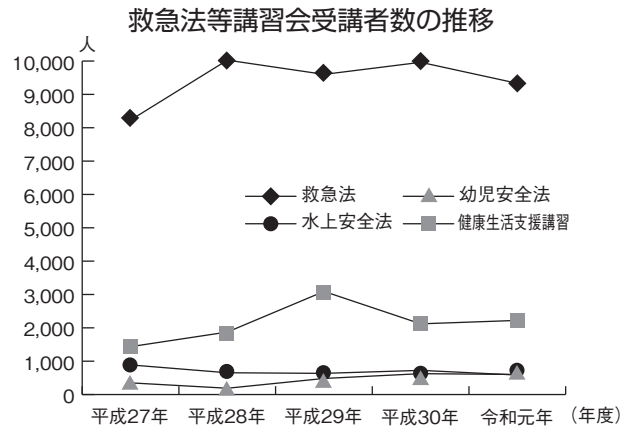
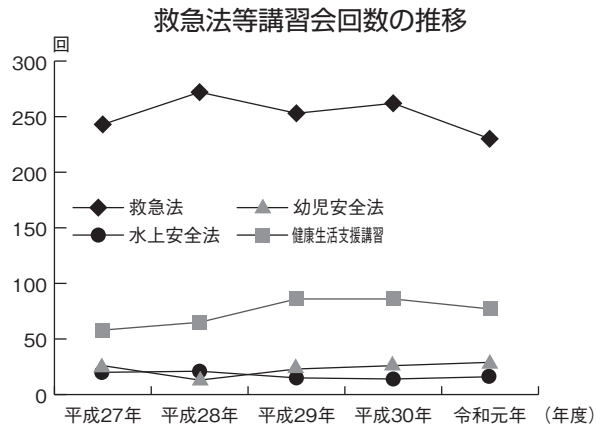
講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
健康生活支援講習	支援員養成講習(12時間)	6	136	134	134
	災害時高齢者生活支援講習	25	743	—	—
	認知症サポーター養成講座	19	424	—	—
	地域で支える認知症	—	—	—	—
	その他	27	923	—	—
	計	77	2,226	134	134



2 講習会の開催（合計）

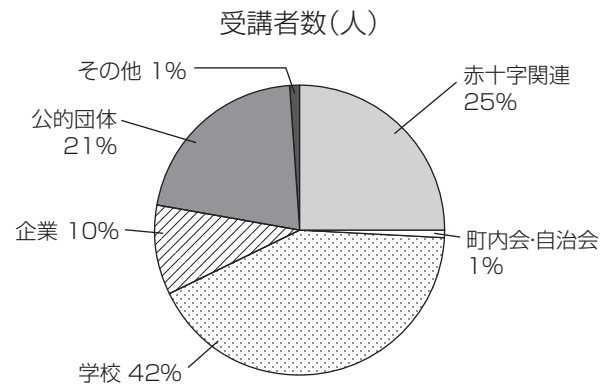
講習種別	実施回数（回）	受講者数（人）	修了者数（人）	養成者数（人）
救急法	230	9,344	791	789
水上安全法	16	588	18	16
幼児安全法	29	605	42	42
健康生活支援講習	77	2,226	134	134
計	352	12,763	985	981

※ 復興支援事業を含む。



3 講習会受講者内訳

	受講者数（人）
赤十字関連	3,217
町内会・自治会	70
学校	5,310
企業	1,231
公的団体	2,738
その他	197
計	12,763



4 青少年赤十字（JRC）加盟校を対象とした救急法等講習会

対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・指導者協議会

内容：心肺蘇生・AEDについて短時間で学ぶ救急法短期講習や水の事故から身を守るための着衣泳等を開催した。

	開催数（回）	受講者（人）
小学校	65	2,907
中学校	17	1,388
高等学校	15	617
特別支援学校	3	182
指導者協議会	13	514
合計	113	5,608



JRC 加盟校を対象とした救急法等講習会

5 防災セミナー

過去の災害から得た教訓を踏まえ、いつ起こるかわからない災害からいのちを守るための知識と技術を普及している。DIG（災害図上訓練）、災害エスノグラフィー、炊き出しなどを地域で開催した。

防災セミナー開催状況

内 容	回数（回）	受講数（人）
災害への備え（講演）	3	124
災害エスノグラフィー	1	60
DIG（災害図上訓練）	3	89
HUG（避難所運営ゲーム）	2	29
応急手当・炊き出し等	21	1,045
合計 ※上記の内容で重複したものは除く	30	1,347



防災セミナー（DIG：災害図上訓練）

6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力

名 称	月 日	場所	参加者
①スポーツ・健康フェスタ	8月4日(日)	郡山市	指導員3、参加者188
②夏休み防災キャンプ	8月9日(金)	福島市	指導員1、参加者82
③お天気フェア	8月10日(土)	福島市	職員1、指導員2、参加者12
④復興支援 フロンティア祭	9月8日(日)	矢吹町	指導員6、参加者119
⑤福島市健康フェスタ	9月8日(日)	福島市	職員1、指導員8、参加者170
⑥義経祭り	9月23日(祝月)	国見町	職員5、指導員5、参加者58
⑦須賀川市子どもの祭典	10月13日(日)	須賀川市	令和元年台風第19号により中止
⑧環境創造シンポジウム	2月2日(日)	三春町	職員1、指導員3、参加者20



福島市健康フェスタ



親子で学ぶ防災セミナー

7 県との連携事業「親子で学ぶ防災セミナー」の開催

開催日	会 場	参加親子 ※（ ）は総数
7月14日(日)	福島市（福島県庁北庁舎）	40組（95名）
7月20日(土)	いわき市（いわき市産業創造会館）	26組（53名）
7月27日(土)	郡山市（ビッグパレットふくしま）	28組（67名）
8月3日(土)	白河市（白河産業プラザ）	10組（24名）
8月4日(日)	いわき市（いわき市産業創造会館）	13組（32名）
8月17日(土)	福島市（福島県庁北庁舎）	10組（21名）
8月18日(日)	会津若松市（会津アピオスペース）	11組（25名）
合 計	7 回	138組（317名）



8 会議・研修会

研 修 会 名	月 日	場 所	参加者 (人)
①第1回赤十字講習推進委員会	7月25日(木)・26日(金)	日赤本社	支部1
②講習担当課長会議	9月17日(火)・18日(水)	日赤本社	支部1
③赤十字講習推進委員会第1ブロック会議	9月30日(月)	宮城県支部	支部2
④幼児安全法指導員養成講習 a. 事前説明会・事前研修 b. 本講習 c. 新任指導員研修	a. 10月16日(水)・17日(木) b. 11月12日(火)・13日(水) 12月11日(水)・13日(金) c. 1月21日(火)・22日(水)	福島県支部	受講者11、講師2 (病院1、支部1)
⑤水上安全法講師養成講習会	11月20日(水)・21日(木)・ 22日(金)	ライトセンター (神奈川県)	支部1
⑥水上安全法講師研究会	12月12日(木)・13日(金)	日赤本社	講師1
⑦健康生活支援講習講師研修会	12月18日(水)・19日(木)	日赤本社	講師2、支部1
⑧幼児安全法講師研修会	12月19日(木)・20日(金)	日赤本社	講師2
⑨水上安全法講師研修会	1月17日(金)	日赤本社	講師2
⑩救急法講師研修会	1月28日(火)	日赤本社	講師2
⑪第2回赤十字講習推進委員会	2月20日(木)	日赤本社	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
⑫救急法等指導員研修会(全体会)	2月29日(土)	福島県支部	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
⑬救急法・水上安全法・幼児安全法指導員 技術研修会	2月24日(祝月)・26日(水) 3月1日(日)・5日(木)	福島県支部	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
⑭健康生活支援講習指導員技術研修会	3月23日(月)	福島赤十字病院	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

9 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数

(令和2年3月31日現在)

講 習 会	ボランティア (人)			職 員 (人)			合 計 (人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
救急法	53	37	90	16	7	23	69	44	113
水上安全法	12	2	14	2	0	2	14	2	16
幼児安全法	18	12	30	7	7	14	25	19	44
健康生活支援講習	2	9	11	0	15	15	2	24	26

10 救急法等講師名簿

各講習会の指導員を養成する指導員養成講習の指導者となる。

(令和2年3月31日現在)

講 習 会	氏 名		
救 急 法	武田 玲子	久保 芳宏	石田 政幸
水 上 安 全 法	久保 芳宏	野崎 謙司	
幼 児 安 全 法	武田 玲子	車田 真美	
健康生活支援講習	武田 玲子	車田 真美	

4 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、明るく住みよい地域社会を築きあげていくために結成された地域奉仕団、青年や学生の若い力を社会のために役立てようと結成された青年奉仕団、特技を活かして社会に奉仕する特殊奉仕団が、共通の理念にたってそれぞれの持ち味を活かした奉仕活動を実践している。

東日本大震災被災者支援活動を引き続き行い、令和元年台風第19号では被災者支援活動を行っている。災害時には住民の立場になり奉仕活動を行うため、日頃から訓練を行って災害に備えている。

1 結成状況

(令和2年3月31日現在)

奉仕団種別	団 数	構 成		
		男 (名)	女 (名)	計 (名)
地域赤十字奉仕団	107	432	10,066	10,498
青年赤十字奉仕団	5	111	100	211
特殊赤十字奉仕団	35	1,039	226	1,265
計	147	1,582	10,392	11,974

2 方部赤十字奉仕団連絡協議会

方部名	令和元年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和元年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和元年度 方部会長奉仕団名
福島	福島市平野	須賀川・岩瀬	須賀川市	両沼	会津美里町本郷
伊達	桑折町	白河市	白河	南会津	南会津町館岩
安達	二本松市安達	西白河	中島村	いわき	いわき市好間地域
郡山	郡山市日和田	東白川	塙町	相馬	休止（暫定原町）
田村	小野町	会津若松	会津若松市	双葉	休止
田村市	大越	北会津	磐梯町	県賛助奉仕団	福島県委員長
石川	石川町	喜多方・耶麻	喜多方市	県防災支援連協	大玉アマ無線

3 赤十字奉仕団指導講師 (6名 令和2年3月31日現在)

福島市 藤田 伸 朔 郡山市 安 田 悠 子
須賀川市 川 田 昌 利 会津若松市 栗 城 美 保
いわき市 飯 間 香保子 南相馬市 鈴 木 進 一
アドバイザー (1名) 郡山市 今 泉 春 雄

4 会議、研修会

名 称	月 日	会 場	参加者 (人)
①青年赤十字奉仕団全国協議会ユース委員会	4月20日(土)・21日(日)	日赤本社	ユース委員2、 青奉1
②全国赤十字奉仕団担当者会議	5月8日(水)・9日(木)	日赤本社	支部1
③県内赤十字奉仕団委員長会議	5月14日(火)・15日(水)	郡山市	県下委員長
④奉仕団中央委員会	5月30日(木)・31日(金)	日赤本社	県委員長1



名 称	月 日	会 場	参加者（人）
⑤第1ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	6月1日(土)・2日(日)	岩手県	県代表1、支部1
⑥全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	7月8日(月)～10日(水)	日赤本社	県委員長1、他2
⑦ボランティアリーダー事前スタッフ会議	5月18日(土)・7月15日(月) 7月31日(水)・8月23日(金)	日赤本社	ユース委員1
⑧赤十字ボランティアリーダー研修会	8月24日(土)～26日(月)	日赤本社	地域1、青奉1、 ユース委員1
⑨青年赤十字奉仕団第1ブロック協議会統一キャンペーン（被災者支援活動）	10月26日(土)・27日(日)	福島市・南相馬市	青奉26、原町奉4、 支部1、住民31
⑩青年赤十字奉仕団基礎研修会	11月16日(土)	福島県支部	青奉6、支部1
⑪赤十字ユース委員会	令和2年 1月12日(日)・13日(月)	日赤本社	ユース委員2
⑫赤十字奉仕団指導講師研修会	2月4日(火)・5日(水)	日赤本社	指導講師候補1
⑬全国賛助奉仕団協議会第2回役員会	2月20日(木)・21日(金)	福島市・浪江町	中止
⑭奉仕団福島県支部委員懇談会	3月13日(金)	福島市	中止
⑮赤十字奉仕団方部連絡協議会長会議	3月13日(金)	福島市	中止



医大学生奉仕団炊き出し研修



福島青年奉仕団基礎研修

5 協 力

赤十字新聞発送作業協力（県北賛助奉仕団、日赤福島ボランティア会）

毎月2日間 延べ24日 293人

6 令和元年度赤十字奉仕団委員長会議

- ア 開催日時 令和元年5月14日(火)～15日(水)
- イ 開催場所 ホテル華の湯（郡山市）
- ウ 参 加 者 赤十字奉仕団委員長または事務局 100人
赤十字奉仕団指導講師 7人
日赤福島県支部 7人

エ 議 題

- (ア) 平成30年度事業報告、令和元年度事業計画について
- (イ) 平成30年度社資実績額、令和元年度社資目標額について
- (ウ) 平成30年度、令和元年度の復興支援事業について
- (エ) 令和元年度いのちと健康を守る講習会について
- (オ) 県内の献血状況について

オ 研 修

- (ア) グループ討議
- ①「幸せな地域づくりのための奉仕活動」
- ②「団員の増強をいかに図るか」



奉仕団委員長会議



避難所運営ゲーム 体験

(イ) 実 習

①「避難所運営ゲーム」(HUG) 体験

5～6人のグループで避難所の対応について考えた

②「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!」の紹介

小学生低学年・保育園児向けに日赤が作成したプログラム

7 令和元年度青年赤十字奉仕団第1ブロック協議会統一キャンペーン

ア 被災地での被災者支援活動

期 日	令和元年10月26日(土)～27日(日)
場 所	福島市 南相馬市北原復興住宅集会所
参加者	復興公営住宅住民31人 北海道・秋田・岩手・宮城・福島の青年赤十字奉仕団員26人 原町赤十字奉仕団員4人 支部職員1 計62人
内 容	福島市環境再生プラザ見学 復興公営住宅においてレクリエーション活動(うた、体操、各道県紹介DVD) 手芸教室①タオルを使った人形②写真を飾るコルクボードの飾りつけ 奉仕団によるクイズ、ダンス



青年奉仕団統一キャンペーン



青年奉仕団統一キャンペーン みんなで手芸

8 令和元年台風第19号等豪雨災害における赤十字奉仕団の主な活動

No	赤十字奉仕団名	赤十字奉仕団として活動したこと			
		活動日	どこで	人数(人)	ボランティア活動内容
1	川 俣 町	約20日間	社会福祉協議会ボラセン	延べ80	川俣町婦人会と共に、ボランティアセンター受付等の支援
2	保 原 町	1日	梁川町避難所		タオル・バスタオル・タオルケット等500枚程届けた
3	梁 川 町	7日間	避難所、まちの駅	延べ81	炊き出し(豚汁、煮物等) 870食
		約36日間	梁川町内2か所	延べ150	梁川町婦人会と共に、梁川総合支所とまちの駅の2か所に2人ずつ派遣し、ボランティアセンターを支援
4	月 館 町	1日	月館町中央交流館	19	床上浸水被害のあった月館町施設において、清掃作業
5	国 見 町	1日	東部高齢者等活性化センター	10	炊き出し(豚汁、ハイゼックスご飯) 150食
6	本 宮 市	4日間	避難所	延べ45	炊き出し(おにぎり豚汁) 720食、白沢奉と共にカレー420食
7	本宮市白沢	2日間	避難所	延べ26	炊き出し(豚汁) 300食、本宮奉仕団と共にカレー420食
8	郡 山 市	5日間	避難所 3か所	延べ32	炊き出し(豚汁、おでん等) 420食
		1日	避難所	7	ダンボールベッド設置のための清掃



No	赤十字奉仕団名	赤十字奉仕団として活動したこと			
		活動日	どこで	人数（人）	ボランティア活動内容
9	富久山町	2日間	避難所 2か所	延べ9	炊き出し（豚汁、焼きそば等）280食
		1日	避難所	3	ダンボールベッド設置のための清掃
10	須賀川市	5日間	避難所 13か所	延べ12	市社会福祉課の依頼により、避難所で傾聴ボランティア
		7日間	社会福祉協議会ボラセン	延べ33	ボランティアセンター受付協力等
		1日	//	8	炊き出し（豚汁 すいとん）120食 ボランティアに提供
		4日間	空港・スーパー等	延べ63	チャリティバザー
11	鏡石町	3日間	公民館で調理し、避難所に	延べ39	炊き出し（おにぎり、豚汁、カレーライス等）1,000食
12	船引町	1日	船引町要田出張所	6	行方不明者の搜索炊き出し（おにぎり）150食
13	柳津町	1日	集会所	7	炊き出し（おにぎり、汁等）6食 他
14	平方部	2日間	平 平窪、赤井地区	延べ21	タオル400本、靴下等を平窪と赤井地区に届けた
15	内郷方部	1日	避難所	11	企業支援炊き出しへの協力 カレー100食 豚汁等200食
16	いわき市四倉方部	1日	平・平窪の避難所	5	炊き出し（おにぎり）100食 久之浜の役員宅で作り届けた
		20日間	久之浜町内高齢者宅等	多数	断水中、一人暮らし高齢者の水運搬の手伝い。自家用車にて入浴施設まで送迎ボラ、お世話を20日ほど継続
		1日	平・平窪地域避難所	4	東京都杉並奉仕団より寄贈のタオル5箱を届ける
17	好間地域	1日	避難所	6	炊き出し（カレーライス、スープ）50食
		1日	避難所	4	傾聴ボランティア
18	あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう	3日間	いわき市水道局職員	延べ4	支援者支援 専門家による指圧を無料提供、受益者13人
		1日	磐城病院 職員	1	支援者支援 専門家による指圧を無料提供、受益者3人
		6日間	郡山市内避難所2か所	延べ21	あん摩マッサージ指圧、ツボ健康講話等、受益者64人
19	県北地区高校JRC	1日	日赤福島県支部災害備蓄倉庫	30	救援物資のトラック積み込み協力
20	防災ボランティアリーダー	18日間	郡山市田村町 災害対策本部	延べ18	郡山ボランティアセンター、日大工学部サテライトと連携し、マッチングやボランティアセンター運営支援 浸水家屋片付け作業等



あん摩・マッサージ・はりきゅう奉仕団避難所で活動



本宮市本宮奉仕団避難所で炊き出し



内郷方部奉仕団避難所で炊き出し

令和元年度赤十字奉仕団と団員数現況

(令和2年3月末現在)

地域奉仕団

No	奉仕団名	男	女	員数
1	飯野町	0	80	80
2	川俣町	0	266	266
3	平野(たんぽぽほうし団)	0	54	54
4	飯坂	0	92	92
5	湯野	0	61	61
6	福島希望	5	15	20
7	吉井田	0	6	6
8	北信(マロニエの会)	0	34	34
9	荒井	0	80	80
10	佐倉	0	43	43
11	伊達	4	31	35
12	保原町	5	223	228
13	梁川町			1,042
14	月舘町	0	201	201
15	霊山町	0	63	63
16	桑折町	2	36	38
17	国見町			2,000
18	大玉村	0	38	38
19	二本松市東和	0	104	104
20	二本松市	0	42	42
21	安達	0	45	45
22	二本松市岩代	0	33	33
23	本宮市本宮	3	83	86
24	本宮市白沢	1	61	62
25	郡山市	16	31	47
26	田村町	0	73	73
27	日和田町	1	43	44
28	富久山町	3	35	38
29	須賀川市	16	139	155
30	鏡石町	1	33	34
31	天栄村	4	22	26
32	三春町	0	41	41
33	小野町(すみれ会)	0	37	37
34	都路町	0	34	34
35	船引町	0	50	50
36	大越町	15	19	34
37	滝根町	0	33	33
38	常葉町	16	35	51
39	浅川町	2	28	30
40	玉川村	3	67	70
41	平田村	7	8	15
42	古殿町	2	33	35
43	石川町	4	25	29
44	白河	147	57	204
45	ひがし	1	1	2
46	大信	2	64	66
47	白河市表郷	8	15	23
48	三神	0	67	67
49	矢吹町	0	70	70
50	中畑	0	45	45
51	泉崎村	0	108	108
52	西郷村	0	221	221
53	中島村	0	30	30

No	奉仕団名	男	女	員数
54	棚倉町	0	58	58
55	矢祭町	0	38	38
56	塙町	6	176	182
57	鮫川村	4	53	57
58	会津若松市(14分団)			694
59	西会津	0	41	41
60	山都町	22	43	65
61	喜多方市	0	51	51
62	高郷町	0	29	29
63	塩川町	9	51	60
64	熱塩加納町	26	45	71
65	北塩原村	19	44	63
66	会津坂下町	0	73	73
67	柳津町(ひまわり会)	1	59	60
68	湯川村	0	26	26
69	会津美里町本郷			50
70	会津美里町高田	1	47	48
71	新鶴地区	0	38	38
72	金山町	3	35	38
73	昭和村	0	26	26
74	三島町	0	39	39
75	北会津	0	41	41
76	猪苗代町	25	13	38
77	磐梯町	0	30	30
78	河東町	3	24	27
79	南会津町田島	6	182	188
80	只見町(ともしび会)	2	198	200
81	下郷町	0	67	67
82	檜枝岐村	0	22	22
83	南会津町南郷	1	0	1
84	南会津町館岩	8	10	18
85	南会津町伊南	9	18	27
86	平方部	0	190	190
87	内郷方部	0	80	80
88	常磐方部	0	54	54
89	小名浜方部(4分団)	0	167	167
90	勿来方部	0	147	147
91	いわき市四倉方部	3	156	159
92	いわき市遠野方部	0	134	134
93	好間地域	0	36	36
94	原町	1	40	41
95	鹿島	1	55	56
96	小高	1	19	20
97	相馬市	0	40	40
98	新地町	0	141	141
99	飯館村	2	18	20
100	大熊町			0
101	広野町	6	29	35
102	川内村	0	200	200
103	浪江町	3	22	25
104	富岡町			0
105	双葉町			0
106	楡葉町			0
107	葛尾村	2	20	22
①計		432	10,066	10,498

青年奉仕団

No	奉仕団名	男	女	員数
1	福島県立医科大学学生	17	68	85
2	福島青年	31	12	43
3	福島学院大学	6	6	12
4	医療創生大学学生	7	3	10
5	日本大学工学部	50	11	61
②計		111	100	211

特殊奉仕団

No	奉仕団名	男	女	員数
1	福島県赤十字安全	62	36	98
2	福島赤十字語学	2	0	2
3	いわき芸能	6	10	16
4	福島赤十字病院	3	14	17
5	日赤福島ボランティア会	27	26	53
6	会津若松市赤十字 防災ボランティア	6	34	40
7	福島県あん摩マッサージ 指圧・はり・きゅう	37	10	47
8	県北地区賛助	88	22	110
9	県中地区賛助	164	17	181
10	県南地区賛助	141	14	155
11	会津地区賛助	131	9	140
12	いわき地区賛助	29	8	37
13	相双地区賛助	121	8	129
③計		817	208	1,025

特殊奉仕団

(アマ無線・防災支援奉仕団)

No	奉仕団名	男	女	員数
1	福島アマ無線	14	1	15
2	会津アマ無線	10	0	10
3	表郷アマ無線	11	1	12
4	矢吹アマ無線	6	0	6
5	只見町アマ無線			0
6	下郷町アマ無線	17	0	17
7	白沢アマ無線(雷鳥ハムクラブ)	9	1	10
8	安達防災支援	5	0	5
9	郡山アマ無線	12	2	14
10	広野町アマ無線	13	3	16
11	田村市大越防災支援	3	0	3
12	勿来防災支援	9	2	11
13	白河アマ無線	10	2	12
14	石川アマ無線	14	0	14
15	大玉アマ無線	10	3	13
16	いわきアマ無線	3	1	4
17	二本松防災支援	11	0	11
18	小高アマ無線	8	0	8
19	飯館村アマ無線	20	0	20
20	河東防災支援無線	17	1	18
21	岩代アマ無線	4	0	4
22	北会津町防災支援	16	1	17
④計		222	18	240
合 計		1,582	10,392	11,974

5

青少年赤十字(JRC)の育成

青少年が赤十字の精神に基づき、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の実践活動を通して、社会に貢献できる人間の育成を目指し、小・中・高等学校に組織され、学校教育の一環として活動を進めている。〔JRC：Junior Red Cross〕

① 加盟学校数とメンバー数（令和元年9月1日現在）

	学校数	メンバー数	県内加盟率
幼稚園	13園	632名	－%
小学校	428校	81,019名	97.3%
中学校	218校	45,207名	94.8%
高等学校	38校	4,177名	34.5%
特別支援学校	4校	299名	16.0%
義務教育学校	2校	432名	100.0%
計	703校	131,766名	87.1%



② 青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数

【幼稚園】

地区名	園数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
福島	5	11	113	126	239	21
郡山	1	3	46	32	78	4
岩瀬	1	2	17	18	35	2
田村	1	1	4	3	7	1
西白河	1	8	78	87	165	8
相馬	4	8	61	50	111	8
計	13	33	315	317	632	44

【小学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
福島	55	610	6,738	6,269	13,007	627
伊達	20	194	1,671	1,691	3,362	194
安達	25	228	2,146	2,031	4,177	230
郡山	54	649	7,329	6,972	14,301	665
岩瀬	22	227	2,554	2,362	4,916	237
石川	9	95	960	919	1,879	97
田村	21	171	1,426	1,384	2,810	176
西白河	28	284	2,865	2,642	5,507	292
東白川	9	84	786	747	1,533	85
会津若松・北会津	27	303	2,717	2,570	5,287	276
耶麻	20	144	1,265	1,178	2,443	148
両沼	14	96	870	861	1,731	100
南会津	14	90	512	450	962	92
相馬	30	263	2,190	2,116	4,306	263
双葉	14	67	182	185	367	78
いわき	66	703	7,436	6,995	14,431	702
計	428	4,208	41,647	39,372	81,019	4,262

【中学校】

地 区 名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
福 島	24	277	3,681	3,412	7,093	395
伊 達	8	76	927	939	1,866	120
安 達	11	97	1,338	1,261	2,599	174
郡 山	27	301	4,068	3,994	8,062	462
岩 瀬	13	117	1,363	1,331	2,694	196
石 川	6	42	510	499	1,009	77
田 村	9	70	812	742	1,554	124
西 白 河	14	128	1,511	1,476	2,987	208
東 白 川	4	34	395	406	801	60
会津若松・北会津	16	139	1,848	1,771	3,619	247
耶 麻	10	58	663	615	1,278	113
両 沼	9	58	623	506	1,129	101
南 会 津	7	32	309	277	586	66
相 馬	12	107	1,150	1,099	2,249	195
双 葉	9	30	89	84	173	71
い わ き	39	342	3,888	3,620	7,508	523
計	218	1,908	23,175	22,032	45,207	3,132

【高等学校】

地 区 名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
県 北	10	51	80	133	213	20
県 南	16	248	2,005	1,722	3,727	100
会 津	5	50	45	61	106	11
いわき・相双	7	35	41	90	131	14
計	38	384	2,171	2,006	4,177	145

【特別支援教育諸学校】

地 区 名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
県 北	1	9	38	19	57	19
県 南	2	52	153	78	231	118
いわき・相双	1	1	5	6	11	5
計	4	62	196	103	299	142

【義務教育学校】

地 区 名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
郡 山	2	20	223	209	432	20
計	2	20	223	209	432	20

【学校別】

	学校数	学 級 グループ数	男	女	計	指導者数	県内の状況(元年度)				※ ¹ 全国加盟率(30年度)	
							学校加盟率 (%)	児童生徒加入率 (%)	※ ² 全学校数 (校)	※ ² 全児童生徒数 (人)	学校加盟率 (%)	児童生徒加入率 (%)
幼 稚 園	13	33	315	317	632	44						
小 学 校	428	4,208	41,647	39,372	81,019	4,262	97.3	92.4	440	87,730	35.5	30.7
中 学 校	218	1,908	23,175	22,032	45,207	3,132	94.8	93.8	230	48,183	34.0	29.8
高 等 学 校	38	384	2,171	2,006	4,177	145	34.5	8.5	110	49,398	38.6	9.0
特別支援学校	4	62	196	103	299	142	16.0	12.8	25	2,330	16.2	13.2
義務教育学校	2	20	223	209	432	20	100.0	100.0	2	432		
計	703	6,615	67,727	64,039	131,766	7,745	87.1	70.1	807	188,073	34.9	24.9

※¹ 日本赤十字社青少年赤十字ボランティア課 資料から抜粋

※² 福島県企画調整部統計課編「平成30年度学校基本調査速報」から抜粋

3 青少年赤十字研究推進校の指定

青少年赤十字活動の振興を目的に、加盟校の中から小・中各1校を研究推進校に指定しています。指定校は、3年間にわたり研究推進に取り組み、最終年度に指導者研修会と学校公開で成果を発表します。

なお、研究推進校の指定期間は、平成29年度までは2年間でしたが、平成30年度から3年間に変更されました。そのため、令和元年度は、学校公開が開催されませんでした。

また、令和元年度は、学校公開に替えて、9月10日(火)に、県内外から青少年赤十字関係者85人が参加し、第一ブロック青少年赤十字指導者研究会の機会を利用して、青少年赤十字活動が活発な福島市立福島第一小学校で講演、授業公開、事後研究会を開催しました。

◎平成30～令和2年度 玉川村立玉川第一小学校・泉中学校

◎令和元～3年度 相馬市立飯豊小学校・向陽中学校



第一ブロック青少年赤十字指導者研究会
福島第一小学校での授業公開

4 令和元年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員

役職名	氏 名	学 校 名
会 長	糀田 祐子	福島市立福島第一小学校
副 会 長	松崎 健一	小野町立浮金小学校
副 会 長	新井田克生	大熊町立大熊中学校
副 会 長	湯田 重哉	福島県立会津学鳳高等学校
監 事	目黒 慎治	平田村立蓬田小学校
監 事	伊藤 弘行	棚倉町立山岡小学校
監 事	鈴木 睦治	福島県立葵高等学校

5 令和元年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員・各地区指導者協議会長

地区名	氏 名	学 校 名	地区名	氏 名	学 校 名
福 島	糀田 祐子	福島市立福島第一小学校	耶 麻	佐藤 義和	喜多方市立山都中学校
伊 達	旗野 宣久	桑折町立睦合小学校	両 沼	高原 昇	湯川村立笈川小学校
安 達	菅藤 文彦	二本松市立大平小学校	南 会 津	酒井 央	南会津町立松沢小学校
郡 山	芳賀 伸介	郡山市立芳賀小学校	相 馬	高橋 恵子	南相馬市立八沢小学校
小中事務局校	山田 弘	郡山市立桑野小学校	双 葉	新井田克生	大熊町立大熊中学校
岩 瀬	古川 久枝	須賀川市立大東小学校	い わ き	大槻 貴	いわき市立菊田小学校
石 川	目黒 慎治	平田村立蓬田小学校	県 高 校	湯田 重哉	福島県立会津学鳳高等学校
田 村	松崎 健一	小野町立浮金小学校	県 北	吉村 淳	福島県立橘高等学校
西 白 河	大杉 和規	白河市立表郷小学校	県 南	澁谷 栄一	福島県立郡山北工業高等学校
東 白 川	伊藤 弘行	棚倉町立山岡小学校	会 津	鈴木 睦治	福島県立葵高等学校
会津若松・北会津	佐藤 秀一	猪苗代町立緑小学校	いわき・相双	芳賀 菊博	福島県立勿来工業高等学校

6 会議、研修会

名 称	月 日	会 場	参加者 (人)
①県指導者協議会総会・研修会(第1回)	5月16日(木)	福島県支部	各地区会長20
②本社 TC 指導者養成講習会	5月24日(金)～26日(日)	国立オリンピック記念センター	指導者3
③防災教育指導者養成講習会	6月15日(土)	福島市	賛助奉仕団員30名
④県高等学校連絡協議会春季総会	6月4日(火)	郡山市	メンバー、教諭
⑤全国指導者協議会会長会議	6月24日(月)～25日(火)	日赤本社	会長1
⑥県高校トレーニング・センター	7月11日(木)～13日(土)	猪苗代町	メンバー、教諭
⑦県指導者講習会	8月7日(水)～9日(金)	郡山市	県内指導者
⑧第1ブロック JRC 研究会	9月10日(火)～11日(水)	福島市	県北地区指導者
⑨県指導者協議会総会・研修会(第2回)	11月14日(木)	福島県支部	各地区会長18
⑩高等学校県大会	11月8日(金)～9日(土)	郡山市	メンバー、教諭
⑪福島県支部主催国際交流事業 フィリピン赤十字社ユースメンバー招へい	11月13日(水)～18日(月)	会津若松市 猪苗代町 三春町	フィリピン赤十字メンバー7
⑫県指導者協議会役員会	令和2年2月6日(木)	福島県支部	役員8

7 県内トレーニングセンターの開催

トレーニングセンターは、青少年赤十字の教育プログラムのひとつであり、集団生活を伴う学習活動の場で赤十字と青少年赤十字について理解を深めるとともに、リーダーとして活躍できる児童・生徒の育成を目指しています。

地区	月 日	会 場	参加人数 (人)	主 な 内 容
福島・伊達・ 安達	7月31日(水)	二本松市立大平小学校	25	防災コミュニケーションワークショップ、非常炊き出し、応急手当、フィールドワーク
郡 山	8月1日(木)・2日(金)	郡山自然の家	106	講話「赤十字について」、救急法、スコアオリエンテーリング、ナイトハイク
西 白 河	7月31日(水)	白河市立表郷小学校	11	防災コミュニケーションワークショップ、非常炊き出し
北会津・ 会津若松	7月31日(水)	国立磐梯青少年交流の家	41	講話「赤十字の歴史と JRC 活動について」子どもにもできる応急手当、フィールドワーク
耶 麻	8月1日(木)	会津自然の家	42	非常炊き出し、救急法
両 沼	7月26日(金)	会津自然の家	71	講話「JRC 活動について」、救急法、オリエンテーリング
いわ き	8月2日(金)	いわき市立菊田小学校	13	講話「JRC 活動について」、救急法、災害時シミュレーション、フィールドワーク
県 高 校	7月11日(木)～13日(土)	磐梯青少年交流の家	27	講話「赤十字・青少年赤十字概論」「人道法」、ゆるスポ、フィールドワーク、ワークショップ
県北高校	8月5日(月)・6日(火)	日赤福島県支部	28	講話「国際人道法」、SDGs、福祉レクリエーション、非常炊き出し、防災演習
県南高校	7月31日(水)	郡山市青少年会館	51	救急基礎講習、非常炊き出し、防災教育
会津高校	8月20日(火)	福島県立葵高等学校	17	避難所運営ゲーム、災害時図上訓練
いわき・ 相双高校	8月9日(金)	いわき市労働福祉会館	21	避難所運営実働訓練、三重県 JRC 活動発表、ワークショップ

8 指導者研修会・講習会等の開催

地区	月 日	会 場	参加人数	主 な 内 容
福島	7月31日(水)	大平小	25	講話
安達	7月31日(水)	大平小	5	講話
岩瀬	5月7日(火)	大東公民館	46	講話
石川	6月19日(水)	蓬田小	15	講話、防災教育
田村	6月18日(火)	船引公民館	29	講話
西白河	6月21日(金)	玉川第一小学校	38	講話
東白川	6月20日(木)	蓬田小学校	17	講話
北会津・会津若松	7月31日(水)	磐梯青少年交流の家	18	講話
耶麻	8月1日(木)	会津自然の家	16	講話
両沼	8月7日(水)～9日(金)	郡山青少年会館	3	講話
南会津	7月30日(火)	御蔵入交流館	22	講話
相馬	5月22日(水)	相馬市民会館	42	講話
いわき	8月2日(金)	菊田小	8	講話、防災教育
県高校	5月14日(火)	郡山市労働福祉会館	25	災害図上演習

9 福島県青少年赤十字賛助奉仕団

「賛助奉仕団」とは、小・中・高等学校で青少年赤十字活動の指導にあたっていた元教員が、青少年赤十字の普及発展に寄与することを目的に活動しているボランティア組織です。

ア 団員数 6地区 合計 747名 (令和元年8月1日)

県北 108名 県中 182名 県南 146名

イ JRC 会議等

会 議 名	場 所	参加者	期 日
①県賛助奉仕団総会	日赤県支部	各地区代議員	5月28日(火)
②全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	日赤本社	全国会長1、県委員長1、他1	7月8日(月)～10日(水)
③青少年赤十字100文字作品審査協力	日赤県支部	団員	9月～11月
④NHK 海外たすけあい街頭募金	県内主要市	団員	12月
⑤全国賛助奉仕団協議会役員会	日赤県支部	全国役員、県委員長等	2月20日(木)～21日(金) 中止

10 青少年赤十字防災教育プログラムの普及

ア 青少年赤十字防災教育指導者養成講習会の開催

実施日 令和元年6月15日(土)

場 所 日本赤十字社福島県支部

参加者 賛助奉仕団員 30人

内 容 日本赤十字社が作成した教材「青少年赤十字防災教育プログラム まもるいのち
ひろめる ぼうさい」の活用方法の演習ほか

イ 各教育事務所における県教育委員会との共催 防災教育研究協議会

		月 日	会 場	スタッフ (人)
1	県北教育事務所	8月6日(火)	コミュタン福島	派遣指導員 1 賛助奉 2
2	いわき教育事務所	8月20日(火)	コミュタン福島	派遣指導員 1 賛助奉 2
3	県南教育事務所	8月29日(木)	コミュタン福島	派遣指導員 1 賛助奉 2
4	県中教育事務所	9月10日(火)	コミュタン福島	派遣指導員 1 賛助奉 2
5	会津教育事務所	9月13日(金)	コミュタン福島	派遣指導員 1 賛助奉 2
6	相双教育事務所	10月24日(木)	コミュタン福島	派遣指導員 1 賛助奉 1
7	南会津教育事務所	11月26日(火)	御蔵入交流館	派遣指導員 1 賛助奉 1

ウ 各学校での防災教育 (児童・生徒向け防災教育プログラム)

日 程		学 校 名	内 容	参加者数（人）
1	6月11日(火)	富岡町立富岡第一・第二小学校（三春校）	非常食体験、いえまですごろく	児童生徒8、教員9
2	6月14日(金)	富岡町立富岡第一・第二小中学校（富岡校）	BCW 3	児童生徒23
3	6月19日(水)	南相馬市立石神第一小学校	BCW 1、非常食体験	児童生徒18・教員6
4	6月21日(金)	国見町立県北中学校	BCW 4	生徒74、教員5
5	6月22日(土)	福島市立吉井田小学校	BCW 3	児童生徒92
6	6月27日(木)	相馬市立中村第二中学校	BCW 1	児童生徒52
7	7月9日(火)	三春町立中郷小学校	BCW 1	児童生徒42、教員6
8	7月16日(火)	鮫川村立鮫川小学校	BCW 1	児童生徒32
9	7月23日(火)	福島県立平支援学校	BCW 4	教員85
10	7月24日(水)	福島県立聴覚支援学校	BCW 4	教員41
11	7月24日(水)	福島県立郡山支援学校	BCW 1	教員150
12	7月29日(月)	いわき市立久ノ浜第一小学校	BCW 1・3	教員10
13	8月1日(木)	相双教育事務所 （遊学ツアー2019）	非常食体験、すごろく	児童生徒45
14	8月31日(土)	相馬市教育委員会 （相馬市立飯豊小学校）	非常食体験	児童生徒21
15	8月31日(土)	新地町立新地小学校	災害時シミュレーション	児童生徒52、保護者20、 教員5
16	9月4日(水)	棚倉町立山岡小学校	災害時シミュレーション	児童生徒15
17	9月11日(水)・ 12日(木)	いわき市立江名中学校	BCW 1・4、非常食体験、救急法、 避難所運営	生徒56
18	9月26日(木)	いわき市立久ノ浜第一小学校	BCW 1、非常食体験	児童生徒26
19	10月11日(金)	喜多方市立姥堂小学校	BCW 1	児童生徒6
20	10月23日(水)	田村市立美山小学校	BCW 1、非常食体験	児童生徒26



日 程	学 校 名	内 容	参加者数(人)
21 11月1日(金)	鮫川村立鮫川小学校	BCW 4、危険はっけん、いえまです ごろく、非常食体験	児童生徒153、教員16、 保護者6
22 11月7日(木)	二本松市立石井小学校	BCW 1	児童生徒70
23 11月20日(水)	いわき市立久ノ浜第一小学校	BCW 1	児童生徒24
24 1月15日(水)	相馬市立磯部中学校	BCW 1	児童生徒16、教員6

※BCW = 「防災コミュニケーションワークショップ」の略

BCW 1…竹ひでタワー、BCW 2…ストーリーを完成させよう、BCW 3…ドローイング・チャレンジ、
BCW 4…自分だったらどうする

11 青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集

青少年赤十字加盟校の児童生徒を対象にテーマを設け、「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を詩や100文字に表現した作品の募集を行っています。

ア 募集期間 平成31年4月1日～令和元年8月31日(小学生・中学生・高校生)

イ 募集テーマ 詩 「いのちの詩・愛の詩」
100文字提案 「わたしにできるボランティア」
「わたしのふるさと」
「わたしが感動したことばやできごと」

ウ 応募校数・応募点数 54校 3,439点

エ 作品審査会(2次) 令和元年11月11日(月)
場所：日本赤十字社福島県支部

オ 入賞作品 社 長 賞 1点
支 部 長 賞 4点
県指導者協議会長賞 1点
県賛助奉仕団委員長賞 1点
学 校 賞 1校
優 秀 賞 26点
入 選 240点

学校奨励賞 6校
佳 作 119点

カ 最優秀作品表彰式 令和元年12月26日(木) 場所：日本赤十字社福島県支部



12 青少年赤十字国際交流事業

青少年赤十字の実践目標のひとつである「国際理解・親善」の具体的な事業として、本県の青少年赤十字メンバーを海外の赤十字加盟国へ派遣したり、海外の赤十字メンバーの受け入れを行ったりしています。

ア 日本赤十字社福島県支部主催国際交流事業

フィリピン赤十字社ユースメンバー招聘

参加者 ユースメンバー5 指導者1 支部職員1

日 程

月 日	内 容
11月14日	福島県立猪苗代高等学校訪問、会津地区ホームステイ
11月15日	会津藩校日新館見学、福島県立会津学鳳高等学校訪問
11月16日	コミュタン福島見学、お別れ会
11月17日	会津若松鶴ヶ城見学、移動（成田）
11月18日	帰国（フィリピン）



イ 青少年赤十字活動資金

青少年赤十字メンバー及び賛助奉仕団から「フィリピン青少年赤十字教育等支援事業」等への活動資金の寄託があった。

前年度繰越額	本年度寄託額	本年度使用額	本年度末残高
193,138円	100,818円	87,576円	206,380円

6

社会福祉活動

① 高齢者福祉対策事業

高齢者作品展示会支部長顕彰

39地区・分区で開催

※10地区・分区は台風第19号及び新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止となった。

② 保健衛生事業

○赤十字健康講演会

病気の早期発見や生活習慣病の予防などを紹介し元気に過ごしていただくために、医師等による健康講演会を開催した。 開催回数7回 参加者数280人

月 日	会 場	講 師	演 題	参加数(人)
5月16日(木)	白河市立図書館	福島赤十字病院 理学療法士 鈴木かおり	「ベッドや椅子で1人で安全に行える健康体操」	47
5月24日(金)	福島市市民会館	福島赤十字病院 副院長 宮田 昌之	「骨粗しょう症について」	27
6月4日(火)	金山町開発センター	福島赤十字病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 八木沼裕子	「食べ続けるための口腔ケア」	48
6月7日(金)	保原中央交流館	福島赤十字病院 理学療法士 鈴木かおり	「ベッドや椅子で1人で安全に行える健康体操」	49
9月13日(金)	いわき市好間公民館	福島赤十字病院 第2栄養係長 管理栄養士 小河原貴之	「高齢者の食事について」	13
9月27日(金)	原町区福祉会館	福島赤十字病院 健診センター長 今野 修	「乳がんの早期発見と治療について」	36
11月23日(土)	喜多方市熱塩加納 保健福祉センター	福島赤十字病院 糖尿病代謝内科部長 佐藤 義憲	「糖尿病の予防と治療」	60



健康講演会（金山町）



健康講演会（熱塩加納町）

③ 地域高齢者生活支援活動

高齢者の健康と自立した生活を地域で支えるため、一般住民を対象に赤十字奉仕団員と共に従来から継続して開催している「赤十字にこにこ健康教室」を実施した。

東日本大震災復興支援事業に記載（P34参照）

7

国際活動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟および各国赤十字・赤新月社と連携しつつ、様々な国際活動を行っている。

① 第一ブロック支部による国際活動への参加

第一ブロック（北海道・東北6県）の各支部では、資金を拠出し、国際活動に参加しており、下記の救急法普及支援事業や青少年赤十字海外支援事業を推進している。

福島県支部は平成30年度まで東日本大震災の被災県であることを鑑み参加していなかったが、令和元年度から参加している。

第一ブロック国際活動参加費		総 額	福島県支部の負担金額
救急法普及 支 援 事 業	東ティモール	2,500,000円	405,000円
	ラオス	2,500,000円	405,000円
青少年赤十字 海外支援事業	ネパール	1,000,000円	162,000円
	バヌアツ	1,000,000円	162,000円
合計		7,000,000円	1,134,000円

② 救援金受付状況（福島県支部取扱分）

救援金名	件 数	金 額
① モザンビーク救援金	2件	15,000円
② 無指定海外救援金	5件	15,000円
③ 中東人道危機救援金	1件	35,000円

③ NHK 海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）

【福島県支部実績】

全体	858件	9,999,665円
（内訳）支部受付	288件	2,659,040円
本社扱郵便為替	570件	7,340,625円

◎当支部主催による街頭募金については、台風第19号による県内の被害に鑑み実施しなかった。

4 支部職員の国際開発事業地（ルワンダ）への派遣

国 名	月 日	人 数
ルワンダ共和国	9月23日(祝月)～29日(日)	支部職員1名

日本赤十字社が支援する開発途上国に支部職員を派遣した。事業地の調査、支援先赤十字社との交流、広報素材の作成などを行った。

日本赤十字社とルワンダ赤十字社は、「気候変動等レジリエンス強化事業」に取り組むこととなっている。



© Atsushi Shibuya/JRCS

開発協力事業地（ルワンダ）への派遣

5 安否調査

日本赤十字社は、赤十字国際委員会を中心に、世界191カ国に組織されている各国赤十字・赤新月社との連携によって紛争や災害により行方不明になった家族の消息および安否の調査を行っている。

◎令和元年度 依頼なし

8

広報資料

社旨普及の広報活動は、赤十字の重要な業務であり、あらゆる機会に「人道・博愛」の精神の普及啓発に努めている。

また、この活動は、赤十字関係者に対する社業推進の状況報告を意味するとともに、広く県民に対する協力支持を要請する啓発活動であり、5月8日の世界赤十字デー、5月の赤十字運動月間を中心に展開している。

本年度の社旨普及、広報活動及び主な刊行物は次のとおりである。

① 日赤本社刊行物の配布

赤十字 NEWS（毎月1日発行）	37,400部
青少年赤十字指導情報	2,250部
青少年赤十字機関誌（小）	1,400部
青少年赤十字機関誌（中・高）	850部
DVD 赤十字この1年2019	
DVD 福島県支部この1年2019	

② 支部発行物の作成配布

ア 社員増強用資料

赤十字社員加入と募集の手引き	24,000部
赤十字のしおり（Q & A）	9,800部
赤十字社員増強運動用チラシ	702,000部
日赤福島県支部広報紙「日赤ふくしま」第44号	373,000部
DVD「日本赤十字社福島県支部130年の歩み」	
※福島県支部創立130周年記念福島県赤十字大会で上映したほか、地区分区、奉仕団の研修で活用	

イ JRC 用資料

青少年赤十字活動4つの勧め	3,000枚
青少年赤十字研究推進校紀要	500部
青少年赤十字加盟校名簿	1,000部
うつくしま JRC フォトニュース第51号・52号・53号	各2,700枚
フィリピンメンバー招へい特集号	2,500枚
JRC ふくしま（青少年赤十字福島県指導者協議会発行）	第58号 2,000部
	第59号 2,500部
わたしの青少年赤十字 詩・100文字提案作品集	5,000部



3 ホームページ等の開設

- ア ホームページ <https://fukushima.jrc.or.jp>
(平成14年3月20日開設、平成28年3月16日リニューアル)
- イ インスタグラム <https://www.instagram.com/nissekifukushima>
(平成29年12月1日開設)
- ウ ツイッター <https://twitter.com/nisseki07>
(平成29年12月1日開設)
- エ フェイスブック <https://www.facebook.com/日本赤十字社福島県支部-1896501787332037/>
(平成29年12月1日開設)

4 新聞・テレビ・ラジオ広報

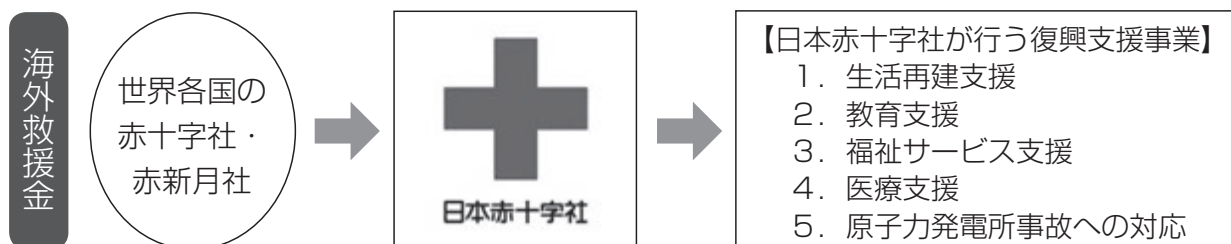
- ア 新聞広告（福島民報社・福島民友新聞社）
県内で開催される健康まつり等のイベントに積極的に参加し、「人道・博愛」の精神の普及に努めている。
なお、参加行事については、「3救急法・健康生活支援講習等の普及 ⑥行事（救急法等）」（P14）及び「9東日本大震災復興支援事業 ⑨復興支援活動広報事業」（P37）をご参照下さい。
- イ ラジオ広告
ラジオ福島「命を守るキャンペーン～ふくしまゼロアクション」協賛
ラジオスポット 20秒 × 8回（令和2年2月～3月）

9

東日本大震災復興支援事業

● 海外救援金による復興支援事業

東日本大震災の発災以降、海外の100を超える赤十字社（赤新月社）を通じて「海外救援金」（約1,000億円）が寄せられました。日本赤十字社ではこの海外救援金を財源として、ボランティアの協力を得ながら被災された方々へのさまざまな復興支援事業を実施しています。



① 復興支援「赤十字にここ健康教室」の実施

復興公営住宅等で不自由な生活を送られている方に対し、不安を軽減し生活不活発発病の予防や介護予防、地域のコミュニティづくりに結びつくよう赤十字奉仕団の協力を得て県内各地で健康教室を実施しています。



〈内容〉 血圧・体脂肪の測定、健康維持のための知識、ストレッチ体操、レクリエーション など
 〈令和元年度〉 11回

② 復興支援「赤十字救急法等講習会」

いのちと健康を守るために、いざというときのための救急法や健康を維持増進するための健康生活支援講習、認知症サポーター養成講座を、地域の集会所等で開催しています。

〈令和元年度〉 117回





3 地区・分区及び赤十字奉仕団による支援事業

日頃から県内各地でボランティア活動を行っている赤十字奉仕団が、被災者（仮設住宅入居者等）の精神的・身体的ストレス解消と健康維持を目的として、仮設住宅集会所や復興公営住宅集会所などにおいて、花植え、お茶会、炊き出しなどのさまざまな支援活動を行っています。

また、地域福祉等支援活動として、震災後急速に進行している高齢化に対応した地域高齢者福祉支援活動や地域における災害用資機材の整備などによる防災活動強化への取り組みも行っています。

〈令和元年度〉 延べ118件（65地区・分区、25団）

◎お茶会やお楽しみ会

地域の赤十字奉仕団は、それぞれ活動メニューを考え、定期的に仮設住宅入居者等を訪問し、お茶会やお楽しみ会を実施しています。ほかにも被災者の意向を組み入れた事業をさまざまに行っています。



◎地域高齢者福祉支援

地域の赤十字奉仕団員は、地域包括支援への貢献に向け、認知症サポーター養成講座や赤十字救急法等を受講し、知識と技術を身につける取り組みをしています。また、一人暮らしの高齢者のもとへ季節感と栄養バランスを考えた弁当を携えて訪問し、コミュニケーションを図る活動なども行っています。



◎炊き出し訓練

赤十字奉仕団は、いざという時に備え、地域の防災訓練などに併せて、炊き出し訓練を行っています。

非常時のスムーズな連携につながるよう、学校で行う防災教育（炊き出し訓練）に協力し、児童・生徒との交流推進を行っています。



4 赤十字スポーツ・レクリエーション

ポールを持って歩くノルディックウォーキングやグラウンドゴルフなどのスポーツ・レクリエーションの実施により、運動不足の解消や、みんなで話をしながら楽しく体を動かして楽しいひと時を過ごせるよう開催の支援をしています。

〈令和元年度〉 5回



5 被災学校支援

東日本大震災および原発事故により移転を余儀なくされ、仮設校舎等で学校生活を送っている小・中・高校生は、被災前とは異なった学校生活を送っています。そこで、対象校と相談し、演劇鑑賞やプロの音楽家による演奏会のほかにも、各校の要望に応じた特色ある事業実施の支援をしています。

〈令和元年度〉 小中高校及び特別支援学校 延べ13ヶ所



6 「青少年赤十字 詩・100文字」作品募集（再掲）

青少年赤十字に加盟している県内小・中・高校の児童・生徒から「いのち」や「ボランティア」をテーマにした応募作品が多数寄せられ、優秀な作品に対して、日本赤十字社社長賞、支部長賞などの表彰を行いました。

〈令和元年度〉 小中高校及び特別支援学校 54校
3,439点応募





7 「青少年赤十字 防災教育プログラム」(再掲)

世界でも類を見ない複合災害を経験している福島県内の児童・生徒に向けて教育現場で「青少年赤十字防災教育プログラム」を普及・活用することを目的として、指導者の育成を行うと共に、防災教室も開催しています。

〈令和元年度〉 指導者養成等8回 防災教室24件



8 国際交流事業「フィリピンメンバー招致」(再掲)

11月13日から11月18日にかけて、フィリピン青少年赤十字メンバー5名及び指導者・支部職員の合計7名を福島県内に招き、県内のJRC加盟高校を巡り、授業や部活動に参加して、県内のJRCメンバーたちと交流を深めました。また、平時災害救護発祥の地や福島県環境創造センターなどを訪れ、県内の赤十字の歴史や福島県の現状について理解を深めてもらいました。



9 復興支援活動広報事業

広報物の活用やマスコミのご協力などにより、海外救援金を基に日本赤十字社福島県支部が復興支援事業に取り組んでいることを、被災者である県民を対象に広くPRしています。



10 医療事業

日本赤十字社の病院は、赤十字社の使命を達成するため、(1)災害時における医療救護 (2)巡回診療その他の地域福祉活動 (3)保健活動 (4)一般診療等の事業を行っている。

福島赤十字病院は、地域社会の公的医療機関としての役割の他、救急病院、地域災害医療センター、福島県原子力災害拠点病院として指定され、また、医師の臨床研修及び看護師の養成にも協力している。

① 医療施設

福島赤十字病院（福島市八島町7-7）

② 診療科（25科）

（令和2年3月31日現在）

内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ膠原病内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、精神科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科

③ 病床数と職員数

（令和2年3月31日現在）

許可病床数 296床〔一般 268床 HCU 12床 感染症 6床 精神 10床〕
職員数 585名〔医師 63名（研修医15名含む） 看護師 305名 医療技術員 98名 その他 119名〕

④ 患者数

	外来			入院		
	令和元年度(人)	平成30年度(人)	前年度比増減(%)	令和元年度(人)	平成30年度(人)	前年度比増減(%)
総患者数	147,463	146,565	0.6	92,029	88,544	3.9
新患者数	10,539	12,696	-17.0	7,088	6,611	7.2
1日平均	614.4	603.1	1.8	251	242.6	3.5
平均在院日数(一般)				11.8日	12.1日	-0.3日
病床利用率				79.5%	73.6%	5.9

⑤ 紹介患者数

	令和元年度	平成30年度	前年度比増減
紹介患者数	7,256人	7,080名	176人
紹介率	95.0%	87.5%	7.5



6 救急車両による搬入患者数

	令和元年度	平成30年度	前年度比増減
患者数	3,242名	3,516名	-274名
内入院患者数	1,624名	1,688名	-64名

7 医療機器の整備（令和元年度分 主なもの）

品名	メーカー	規格・型式	台数
自動ガラス封入装置	サクラファインテック	Clas g2-JO	1台
超音波診断装置	キャノン	Xario100G	1台
搬送用保育器	アトムメディカル	IncuArch	1台
血圧脈波検査装置	フクダ電子	バセラ VS-3000TN	1台

8 訪問看護ステーションの運営

訪問延べ回数 4,403回

9 各種教室及び相談

ア 各種教室

・母乳栄養と妊娠中の栄養	124名	・父親のための子育てクラス	46名
・もうすぐお母さんクラス	32名	・孫育てクラス	6名
・マタニティーヨガクラス	98名	・お産後サークル	34名
・同伴分娩クラス	250名		

イ 相談

・医療相談 7,855回

ウ 各種検診・保健指導

・乳児検診（30日健診）	183名	・福島市10ヵ月検診	40名
・各種ドック	332名	・協会けんぽ生活習慣病予防健診	1,012名
・市町村民健診	687名	・妊婦健診	1,744名
・小児健診（福島県県民健康管理調査）	3名	・その他の健診	2,231名
・内部被ばく検査	30名	・甲状腺超音波検査（福島県県民健康管理調査）	103名
・保健指導	354名		

11 血液事業

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤（人の血液又は血液から得られた物を有効成分とする医薬品。輸血用血液製剤と血漿分画製剤とがある。）として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいう。

① 施 設

施 設 名	所 在 地
福島県赤十字血液センター	福島市永井川字北原田17
福島県赤十字血液センター 会津出張所	会津若松市一箕町大字八幡字門田1-6
福島県赤十字血液センター いわき出張所	いわき市中央台飯野5丁目1-1
福島県赤十字血液センター 郡山駅前出張所（郡山駅前献血ルーム）	郡山市駅前一丁目6番10号
福島県赤十字血液センター 郡山供給出張所	郡山市備前館一丁目132番地
福島県赤十字血液センター 相馬供給出張所	相馬市粟津字粟津18番地7

② 献血及び供給

令和元年度の献血者数は77,345人であり、平成30年度の献血者76,948人に対し、対前年比100.5%の実績で、献血方法別比率では、成分献血32.0%、400mL 献血65.7%、200mL 献血2.3%で、申込み者84,738人の内、献血できなかった人は7,393人（8.7%）であった。

輸血用血液製剤は、250,132単位（200mL 単位換算）を供給した。

③ 献血の状況

ア 献血区分別献血状況

献血受入区分	献血方法	成分献血 (人)	400mL 献血 (人)	200mL 献血 (人)	合計 (人)	献血受入区分別 比 率 (%)
血 液 セ ン タ ー		14,761	5,964	169	20,894	27.0
移 動 採 血 車		0	39,719	1,365	41,084	53.1
郡 山 駅 前 出 張 所		9,959	5,152	256	15,367	19.9
合 計		24,720	50,835	1,790	77,345	100.0
献 血 方 法 比 率 (%)		32.0	65.7	2.3	100.0	

イ 性別及び年齢別献血者数

年齢(歳)	男 性		女 性		合 計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
16～19	1,761	2.3	1,341	1.7	3,102	4.0
20～29	7,257	9.4	2,684	3.5	9,941	12.9
30～39	10,457	13.5	3,069	4.0	13,526	17.5
40～49	16,226	21.0	4,700	6.1	20,926	27.1



年齢(歳) \ 性別	男 性		女 性		合 計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
50～59	16,315	21.1	4,718	6.1	21,033	27.2
60～64	4,764	6.1	1,158	1.5	5,922	7.6
65～69	2,383	3.1	512	0.6	2,895	3.7
合 計	59,163	76.5	18,182	23.5	77,345	100.0

ウ 性別及び職業別献血者数

職業別 \ 性別	男 性		女 性		合 計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
公 務 員	9,686	12.6	1,665	2.2	11,351	14.7
会 社 員	38,933	50.3	8,603	11.1	47,536	61.4
高 校 生	723	0.9	796	1.0	1,519	2.0
その他学生	1,548	2.0	872	1.1	2,420	3.1
そ の 他	8,273	10.7	6,246	8.1	14,519	18.8
合 計	59,163	76.5	18,182	23.5	77,345	100.0

エ 初回献血者数と再来献血者数

新規・再来別 \ 合計	初回献血者		再来献血者		合 計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
合 計	4,239	5.5	73,106	94.5	77,345	100.0

オ 献血の推移

(ア) 年度別献血者数

年 度	献血者数(人)	前年度比(%)
令和元年度	77,345	100.5
平成30年度	76,948	99.1
平成29年度	77,618	99.5
平成28年度	78,041	97.0
平成27年度	80,485	95.0

年 度	献血者数(人)	前年度比(%)
平成26年度	84,749	93.0
平成25年度	91,166	99.5
平成24年度	91,657	116.7
平成23年度	78,548	85.1
平成22年度	92,329	100.5

4 血液製剤供給の状況

血液製剤 (200mL 換算)		割合 (%)
赤血球製剤	108,964単位	43.6
血漿製剤 ※ 1	29,408単位	11.7
血小板製剤	111,760単位	44.7
合 計	250,132単位	100.0

※ 1 血漿製剤は、FFP-LR120を1単位、FF-LR240を2単位、FFP-LR480を4単位にて算出

5 推進会議等の開催

会 議 名	場 所	期 日
市町村献血担当課長会議	福 島 市	令和元年12月25日
福島県献血推進協議会	福 島 市	令和2年2月6日

6 献血思想の普及啓発・行事

献血思想の普及と献血意識の高揚を図り、献血運動を推進するため、広報活動を実施した。

ア 「愛の血液助け合い運動」の実施

主 催：福島県、各市町村、日本赤十字社福島県支部

期 間：令和元年7月1日～31日

実施内容：ポスター等の広報資材を各保健福祉事務所、市町村に配布、県内各方部において、赤十字奉仕団、青少年赤十字メンバー等と共に献血を呼びかけた。

街頭キャンペーン（13市）

7月7日(日) 福島市	7月7日(日) 南相馬市	7月8日(月) 田村市
7月10日(水) 相馬市	7月11日(木) 白河市	7月14日(日) 二本松市
7月14日(日) 喜多方市	7月15日(月) 郡山市	7月21日(日) 本宮市
7月21日(日) 会津若松市	7月28日(日) 須賀川市	7月28日(日) いわき市
7月29日(月) 伊達市		

イ 「献血感謝デー」等の開催

日頃の献血に感謝し、各施設において新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら開催。福島の固定施設では、例年実施しているイベント形式にはせず、ラジオの公開生放送のみ行った。会津出張所においては、3月末で献血ルームが閉所となることから「ありがとう献血キャンペーン」を実施した。

主 催	場 所	期 間	献血者(人)
福島県赤十字血液センター	福島県赤十字血液センター	令和2年3月8日(日)	144名
福島県赤十字血液センター 会津出張所	福島県赤十字血液センター 会津出張所	令和2年3月2日(月)～30日(月) のうち14日間	668名
福島県赤十字血液センター いわき出張所	福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和2年3月7日(土)～21日(土) のうち7日間	339名
福島県赤十字血液センター 郡山駅前出張所	福島県赤十字血液センター 郡山駅前出張所	令和2年2月3日(月)～7日(金)	243名

ウ 夏休み血液センター親子見学会

夏休みを利用し、親子で献血についての知識と理解を深めることを目的に県内各地で開催した。

主 催	期 間	参 加 者
福島県赤十字血液センター	令和元年8月10日(土)	幼児・小学生と保護者 計36名
福島県赤十字血液センター 会津出張所	令和元年8月5日(月)、7日(水)、 10日(土)、12日(月)、14日(水)	小学生と保護者 計30名
福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和元年8月10日(土)、17日(土)	小学生・中学生と保護者 計17名



エ キャンペーン

① 「全国学生クリスマス献血キャンペーン2019」

主 催：全国学生献血推進実行委員会

期 日：令和元年12月1日～12月31日

② 令和2年「はたちの献血」キャンペーン

主 催：厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

期 日：令和2年1月1日～2月29日

7 骨髄ドナー登録者の受入状況

骨髄移植推進財団が推進する骨髄バンク事業のうち、日本赤十字社は造血肝細胞提供支援機関の指定を受け、骨髄提供希望者の登録管理業務を行っている。

骨髄バンク集団登録説明会及び献血併行型ドナー登録会は、福島県骨髄バンク推進協議会と各保健所が中心となり、今年度は県内で70回実施され、645人が登録した。

骨髄ドナーの登録状況

(単位：人)

登録者数	施設別	福 島 県	会津出張所	いわき出張所	郡山駅前出張所	計
前年度までの登録者数		14,988				14,988
登 録 者		673	13	20	52	758
取 消 数		754				754
転 入 者						
転 出 者						
総 登 録 者		14,907	13	20	52	14,992

※ 2 各保健所登録、献血併行型登録を含む

8 第55回献血運動推進全国大会における表彰

期 日：令和元年7月11日(木)

場 所：石川県立音楽堂（石川県金沢市）

ア 厚生労働大臣表彰（3団体）

イ 厚生労働大臣感謝状（11団体）

9 日本赤十字社有功章社員等贈与規則に基づく表彰

◎日本赤十字社福島県支部 献血団体並びに献血推進団体表彰式を開催

継続的に献血に協力をいただき日本赤十字社より表彰された献血団体及び献血推進団体に対し、その功労を称え感謝の意を表すため、表彰伝達式を開催した。

主 催 日本赤十字社福島県支部、福島県赤十字血液センター

期 日 令和元年10月8日(火)

会 場 日本赤十字社福島県支部 3階 会議室

ア 献血団体功労

①社長感謝状 16団体

②金色有功章 15団体

- | | |
|-------------|------|
| ③銀色有功章 | 17団体 |
| ④支部長感謝状（金枠） | 20団体 |
| ⑤支部長感謝状（銀枠） | 24団体 |

イ 献血推進団体功労

- | | |
|-------------|-----|
| ①社長感謝状 | 1団体 |
| ②支部長感謝状（金枠） | 2団体 |
| ③支部長感謝状（銀枠） | 3団体 |



社長感謝状の受賞者



表彰状授与

12 評議員会

(1) 令和元年6月10日 令和元年度第1回評議員会

- 議案第1号 平成30年度日本赤十字社福島県支部事業報告及び収支決算について
- 議案第2号 平成30年度福島赤十字病院事業報告及び収支決算について
- 議案第3号 平成30年度福島県赤十字血液センター事業報告について

(2) 令和2年2月5日 令和元年度第2回評議員会

- 議案第1号 令和2年度日本赤十字社福島県支部事業計画及び収支予算について
- 議案第2号 令和2年度福島赤十字病院事業計画及び収支予算について
- 議案第3号 令和2年度福島県赤十字血液センター事業計画について
- 議案第4号 日本赤十字社福島県支部監査委員の選出について

13 業務監理執行及び会計の監査

令和元年6月4日、5日、日本赤十字社福島県支部において監査委員により、次のとおり平成30年度業務監理執行並びに会計について監査が実施され、講評が行われた。

- 令和元年6月4日 平成30年度日本赤十字社福島県支部の業務監理執行及び会計の監査
- 令和元年6月4日 平成30年度福島赤十字病院の業務監理執行及び会計の監査
- 令和元年6月5日 平成30年度福島県赤十字血液センターの業務監理執行の監査

14

福島県支部創立130周年記念福島県赤十字大会

ア 開催日 令和元年7月18日(木)
 イ 開催場所 とうほう・みんなの文化センター 大ホール
 ウ 参加者 受章者、来賓、支部役員・評議員、地区分区関係者、奉仕団員、青少年赤十字関係者、有功会員 等 約1,500人

エ 内 容

第1部 式 典

日本赤十字社名誉副総裁 寛仁親王妃信子殿下による表彰
 大塚義治社長及び内堀雅雄支部長による表彰
 体験発表

・「感謝の心を持って」

いわき市四倉方部赤十字奉仕団 佐藤トミ子 委員長

・「10代の献血者の増加に向けて」

学校法人松韻学園福島高等学校JRC部 原 大河 部長

第2部 コンサート 福島県立郡山高等学校合唱部



妃殿下の御臨席を仰ぎ、式辞を述べる内堀支部長



大塚社長から社長感謝状の贈呈



赤十字奉仕団体験発表



青少年赤十字体験発表



郡山高等学校合唱部によるコンサート

福島県支部は、令和元年7月18日に日本赤十字社名誉副総裁の寛仁親王妃信子殿下ご臨席のもと、とうほう・みんなの文化センターにおいて、令和初の地方大会となる福島県支部創立130周年記念福島県赤十字大会を開催しました。

第1部の式典では、約1,500名の関係者が参加される中、多額の活動資金のご協力や永年の奉仕活動等功勞のあった方々への表彰が行われ、妃殿下からは、震災当時の救護活動やこれまで続けてきた復興支援活動に対して、温かいおことばをいただきました。

体験発表では、いわき市四倉方部赤十字奉仕団委員長の佐藤トミ子さんが、東日本大震災で被災しながらも、懸命に活動した当時の様子を発表しました。また、学法福島高校JRC部部長の原大河さんが、10代の献血者を増やしたいという想いで取り組んだ活動内容を発表しました。

第2部では、平成30年に二つの全国大会で日本一に輝いた県立郡山高等学校合唱部によるコンサートが行われました。合唱部がモットーにしている「輝きのある凛とした透明感のある響き」の歌声に多くの皆さんが感銘を受けていました。

妃殿下は、翌19日には平成31年1月に新築移転した福島赤十字病院をご視察され、リハビリ中の患者さんや産後のお母さんたちに励ましの言葉を掛けてくださいました。



福島赤十字病院を御視察される妃殿下

15 赤十字社員増強運動

① 赤十字社員増強運動の推進と成果

ア 赤十字社員数

日本赤十字社は、社員をもって組織されており、毎年5月を中心に社員増強運動を展開している。当支部の社員数は下表のとおりである。

なお、赤十字活動を理解していただいて社員として加入し、継続して支援いただける社員を確保することが重要であることから、加入（協力）の際の意思確認に努めている。

（令和2年3月31日現在）

	社 員 数
社員（個人）	3,674名
社員（法人）	920法人
合 計	4,594名・法人

イ 社資募集実績額

赤十字の事業は、社員が納入する社費（会費）と寄付金を財源として実施している。令和元年度の社資（社費及び寄付金）実績額は下表のとおりである。

	社資目標額	社資実績額	達 成 率
一 般 社 資	256,299,000円	254,272,806円	99.2%
法 人 社 資	10,000,000円	19,467,118円	194.7%
合 計	266,299,000円	273,739,924円	102.8%

ウ 令和元年度社資実績額表

（令和2年3月31日現在）

	地 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達成率（実績額／ 目標額）%	前年度実績額 (円)
市 地 区	福 島 市 地 区	37,513,000	33,010,722	2,646,896	35,657,618	95.1	35,076,504
	伊 達 市 地 区	9,834,000	9,616,686	0	9,616,686	97.8	10,081,580
	二本松市地区	8,362,000	7,844,800	100,000	7,944,800	95.0	7,921,700
	本 宮 市 地 区	4,108,000	3,489,210	0	3,489,210	84.9	3,516,550
	郡 山 市 地 区	41,868,000	37,899,038	150,000	38,049,038	90.9	39,037,479
	田 村 市 地 区	5,562,000	5,491,150	0	5,491,150	98.7	5,645,940
	須賀川市地区	8,917,000	7,677,050	0	7,677,050	86.1	7,903,224
	白 河 市 地 区	8,198,000	7,175,000	3,606	7,178,606	87.6	7,130,419
	会津若松市地区	16,073,000	10,862,393	4,437,500	15,299,893	95.2	15,702,812
	喜多方市地区	7,254,000	7,061,674	0	7,061,674	97.3	7,682,706
	南相馬市地区	6,576,000	7,090,158	0	7,090,158	107.8	6,659,163
	相 馬 市 地 区	4,226,000	4,114,500	83,000	4,197,500	99.3	4,401,600
	いわき市地区	42,438,000	40,434,381	0	40,434,381	95.3	42,223,250
	市 地 区 合 計	200,929,000	181,766,762	7,421,002	189,187,764	94.2	192,982,927
県 北	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達成率（実績額／ 目標額）%	前年度実績額 (円)
	川 俣 町 分 区	2,418,000	2,433,400	0	2,433,400	100.6	2,391,000
	桑 折 町 分 区	1,851,000	1,828,900	0	1,828,900	98.8	1,799,700
	国 見 町 分 区	1,723,000	1,842,360	0	1,842,360	106.9	1,996,300
	大 玉 村 分 区	985,000	1,065,500	0	1,065,500	108.2	1,046,500
	県 北 地 区 計	6,977,000	7,170,160	0	7,170,160	102.8	7,233,500



	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達成率(実績額/ 目標額) %	前年度実績額 (円)
県中	三 春 町 分 区	2,416,000	2,187,000	0	2,187,000	90.5	2,198,560
	小 野 町 分 区	1,580,000	1,568,500	0	1,568,500	99.3	1,488,000
	鏡 石 町 分 区	1,653,000	1,590,000	0	1,590,000	96.2	1,584,000
	天 栄 村 分 区	857,000	834,800	0	834,800	97.4	833,600
	石 川 町 分 区	2,276,000	1,953,002	0	1,953,002	85.8	1,965,500
	玉 川 村 分 区	909,000	863,500	0	863,500	95.0	980,500
	平 田 村 分 区	919,000	836,500	0	836,500	91.0	846,000
	浅 川 町 分 区	895,000	860,600	0	860,600	96.2	859,600
	古 殿 町 分 区	889,000	834,500	0	834,500	93.9	843,500
	県 中 地 区 計	12,394,000	11,528,402	0	11,528,402	93.0	11,599,260
県南	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達成率(実績額/ 目標額) %	前年度実績額 (円)
	西 郷 村 分 区	2,313,000	2,408,500	0	2,408,500	104.1	2,395,500
	泉 崎 村 分 区	798,000	814,500	0	814,500	102.1	824,000
	中 島 村 分 区	661,000	572,000	0	572,000	86.5	580,000
	矢 吹 町 分 区	2,152,000	2,142,600	0	2,142,600	99.6	2,074,200
	棚 倉 町 分 区	2,024,000	1,961,000	0	1,961,000	96.9	2,003,000
	矢 祭 町 分 区	910,000	829,500	0	829,500	91.2	839,500
	塙 町 分 区	1,631,000	1,597,280	11,000	1,608,280	98.6	1,527,380
	鮫 川 村 分 区	594,000	600,000	0	600,000	101.0	582,000
	県 南 地 区 計	11,083,000	10,925,380	11,000	10,936,380	98.7	10,825,580
会津	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達成率(実績額/ 目標額) %	前年度実績額 (円)
	磐 梯 町 分 区	565,000	533,000	0	533,000	94.3	530,500
	猪 苗 代 町 分 区	2,529,000	2,513,964	0	2,513,964	99.4	2,549,100
	北 塩 原 村 分 区	527,000	459,300	0	459,300	87.2	478,800
	西 会 津 町 分 区	1,382,000	1,233,000	0	1,233,000	89.2	1,235,700
	会 津 坂 下 町 分 区	1,992,000	1,563,860	0	1,563,860	78.5	2,034,700
	湯 川 村 分 区	438,000	426,000	0	426,000	97.3	425,500
	柳 津 町 分 区	622,000	555,000	0	555,000	89.2	584,500
	会 津 美 里 町 分 区	3,231,000	3,149,000	0	3,149,000	97.5	3,222,900
	三 島 町 分 区	385,000	345,000	1,000,000	1,345,000	349.4	853,500
	金 山 町 分 区	568,000	505,500	0	505,500	89.0	615,500
	昭 和 村 分 区	401,000	902,500	0	902,500	225.1	404,500
	会 津 地 区 計	12,640,000	12,186,124	1,000,000	13,186,124	104.3	12,935,200
南会津	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達成率(実績額/ 目標額) %	前年度実績額 (円)
	南 会 津 町 分 区	2,922,000	2,835,000	1,500	2,836,500	97.1	2,624,000
	下 郷 町 分 区	1,088,000	1,112,952	8,000	1,120,952	103.0	1,192,526
	檜 枝 岐 村 分 区	118,000	102,500	0	102,500	86.9	103,500
	只 見 町 分 区	959,000	665,500	0	665,500	69.4	917,500
	南 会 津 地 区 計	5,087,000	4,715,952	9,500	4,725,452	92.9	4,837,526
相双	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達成率(実績額/ 目標額) %	前年度実績額 (円)
	新 地 町 分 区	1,189,000	1,715,500	0	1,715,500	144.3	1,215,000
	飯 館 村 分 区	0	1,392,000	0	1,392,000	0	1,871,000
	双 葉 町 分 区	0	841,000	0	841,000	0	348,446
	檜 葉 町 分 区	0	1,247,800	0	1,247,800	0	924,800
	広 野 町 分 区	0	596,500	0	596,500	0	594,200
	富 岡 町 分 区	0	40,000	0	40,000	0	347,390
	川 内 村 分 区	0	756,500	0	756,500	0	736,000
	大 熊 町 分 区	0	1,173,592	0	1,173,592	0	149,569
	浪 江 町 分 区	0	329,400	0	329,400	0	458,800
	葛 尾 村 分 区	0	87,000	0	87,000	0	44,000
	相 双 地 区 計	1,189,000	8,179,292	0	8,179,292	687.9	6,689,205

		目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達成率(実績額／ 目標額) %	前年度実績額 (円)
郡 地 区 計		49,370,000	54,705,310	1,020,500	55,725,810	112.9	54,120,271
地区分区計		250,299,000	236,472,072	8,441,502	244,913,574	97.8	247,103,198
支 部	支部直接(個人)	6,000,000	17,800,734	－	17,800,734	296.7	42,318,896
	支部直接(法人)	10,000,000	－	11,025,616	11,025,616	110.3	14,063,155
支部扱合計		16,000,000	17,800,734	11,025,616	28,826,350	180.2	56,382,051
一般社資合計		256,299,000	254,272,806	－	254,272,806	99.2	281,454,989
法人社資合計		10,000,000	－	19,467,118	19,467,118	194.7	22,030,260
福島県支部合計		266,299,000	254,272,806	19,467,118	273,739,924	102.8	303,485,249

工 社資目標額と実績額の推移

	社資目標額(千円)			社資実績額(円)			達成率 (%)
	一 般	法 人	合 計	一 般	法 人	合 計	
令和元年度	256,299	10,000	266,299	254,272,806	19,467,118	273,739,924	102.8
平成30年度	256,299	10,000	266,299	281,454,989	22,030,260	303,485,249	114.0
平成29年度	256,299	10,000	266,299	267,308,697	28,601,881	295,910,578	111.1
平成28年度	259,335	10,000	269,335	271,623,533	17,108,292	288,731,825	107.2
平成27年度	255,335	8,000	263,335	276,792,490	21,545,712	298,338,202	113.3
平成26年度	255,335	8,000	263,335	266,524,268	15,934,934	282,459,202	107.3
平成25年度	251,685	8,000	259,685	267,102,167	20,592,171	287,694,338	110.8
平成24年度	256,269	10,000	266,269	250,382,306	8,776,731	259,159,037	97.3
平成23年度	277,000	23,000	300,000	190,215,205	7,837,845	198,053,050	66.0
平成22年度	275,000	25,000	300,000	280,065,471	33,899,248	313,964,719	104.7

2 表 彰

ア 社資功労表彰

(ア) 厚生労働大臣感謝状 【8件】

同一年度に社資100万円以上の個人並びに300万円以上の法人

市 町 村	個 人	法 人
会 津 若 松 市		1
福 島 市	5	
田 村 市	1	
飯 舘 村	1	

(イ) 社長感謝状 【24件】

金色有功章受章後の社資が50万円以上都度

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	5	2
郡 山 市		2
須 賀 川 市	2	
会 津 若 松 市	1	2
喜 多 方 市	3	
相 馬 市		1
猪 苗 代 町	1	1
三 島 町		1
南 会 津 町	1	
大 熊 町		1
東 京 都 台 東 区		1

(ウ) 金色有功章 【30件】

社資が50万円以上

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	2	5
伊 達 市	2	
郡 山 市	3	2
田 村 市	1	1
会 津 若 松 市	1	
喜 多 方 市	2	
南 相 馬 市	3	
昭 和 村	1	
南 会 津 町		1
新 地 町	1	
飯 舘 村	4	
双 葉 町	1	

(エ) 銀色有功章 【36件】

社資が20万円以上

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	1	7
伊 達 市	1	
本 宮 市		1
郡 山 市	3	3
田 村 市	1	
会 津 若 松 市	2	
喜 多 方 市	2	
南 相 馬 市	1	2
い わ き 市	1	2
猪 苗 代 町	1	
西 会 津 町	1	
会 津 美 里 町	2	
三 島 町		1
南 会 津 町	1	
下 郷 町	1	1
飯 舘 村	1	

イ 業務功勞表彰

(㍑) 役職功勞 【金色有功章 15件、銀色有功章 13件】

市 町 村	役 職	金色有功章	銀色有功章
郡 山 市	地 区 長		1
	分 区 長		1
	副 地 区 長		1
	幹 事	1	
	事 務 委 員	3	7
	協 賛 委 員	6	
い わ き 市	評 議 員		1
相 馬 市	評 議 員		1
三 春 町	分 区 長	1	
	事 務 委 員	1	
玉 川 村	分 区 長	1	
柳 津 町	分 区 長	1	
	事 務 委 員		1
新 地 町	分 区 長	1	

(㍒) 奉仕団功勞 【社長感謝状 15件、金色有功章 6件、銀色有功章 3件】

社長感謝状：金色有功章受章後活動年数10年以上

金色有功章：活動年数20年以上 銀色有功章：活動年数15年以上

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
福 島 市	1	2	
伊 達 市	1		
二 本 松 市	1	1	1
郡 山 市	1	1	
須 賀 川 市	1		
会 津 若 松 市			2
南 相 馬 市	1		
大 玉 村	1	1	
三 春 町	1		
石 川 町		1	
西 郷 村	1		
矢 吹 町	2		
西 会 津 町	1		
柳 津 町	1		
南 会 津 町	1		
下 郷 町	1		

(㍓) 奉仕団員等奉仕者 【社長感謝状 5件、金色有功章 47件、銀色有功章 131件】

社長感謝状：金色有功章受章後活動年数10年以上

金色有功章：奉仕団活動年数20年以上 銀色有功章：奉仕団活動年数15年以上

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
福 島 市		1	6
伊 達 市		2	2
二 本 松 市		3	
本 宮 市			1
郡 山 市		14	4
田 村 市			1
白 河 市		2	1



市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
会 津 若 松 市		1	23
喜 多 方 市		4	
南 相 馬 市		1	8
相 馬 市			1
い わ き 市	1	7	19
川 俣 町	1		
大 玉 村			1
三 春 町	1		
小 野 町		3	2
鏡 石 町		2	
石 川 町			1
浅 川 町			1
古 殿 町			4
矢 祭 町			2
塙 町		1	4
猪 苗 代 町	2		2
北 塩 原 村		2	3
西 会 津 町			5
会 津 坂 下 町			2
湯 川 村			4
会 津 美 里 町		4	3
三 島 町			10
金 山 町			2
南 会 津 町			3
只 見 町			11
広 野 町			4
埼 玉 県 吉 川 市			1

(丁) 献血者 【金色有功章 106件、銀色有功章 173件】

金色有功章：献血100回以上 銀色有功章：献血70回以上

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
福 島 市	27	36
伊 達 市	3	9
二 本 松 市		5
本 宮 市		3
郡 山 市	24	41
田 村 市	1	3
須 賀 川 市	4	5
白 河 市	4	2
会 津 若 松 市	6	16
喜 多 方 市	2	5
南 相 馬 市	3	2
相 馬 市		2
い わ き 市	11	22
川 俣 町		1
桑 折 町	1	
国 見 町	2	
大 玉 村	1	3
三 春 町	1	2
小 野 町	1	1
鏡 石 町	2	2

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
天 栄 村		1
石 川 町		3
玉 川 村	1	
浅 川 町	1	
西 郷 村		1
中 島 村	1	
矢 吹 町		1
矢 祭 町	1	
塙 町	1	1
猪 苗 代 町	1	1
会 津 坂 下 町		2
会 津 美 里 町	3	2
新 地 町		1
飯 舘 村	1	
富 岡 町	1	
浪 江 町	2	

3 優良地区・分区の表彰

社資増強運動推進の結果、社資目標額に対し実績額が特に顕著な地区・分区に「日本赤十字社福島県支部社資功労表彰要綱」により表彰を行った。

社資目標額に対して150%以上の実績を収めた分区【2分区】

分 区	社 資 目 標 額	社 資 実 績 額	達 成 率
三 島 町	385,000円	1,345,000円	349.4%
昭 和 村	401,000円	902,500円	225.1%

4 地区有功会の結成状況

有功章受章者を会員とする地区（地方・分区）有功会は、現在15地区で結成されており、赤十字の社旨普及と仲間づくり（社員加入促進）を目的として活動を展開し、赤十字活動の支援組織としての役割を担っている。

（令和2年3月31日現在）

名 称	結 成	会長名	会 員 数					事務局
			社資(個)	社資(法)	業務	献血	合計	
1 福島市地区有功会	H6.4.12	栗城 繁行	24	53	0	0	77	福島市地区
2 郡山市地区有功会	H5.5.11	遠藤 君子	24	37	39	0	100	郡山市地区
3 いわき市地区有功会	H5.5.25	越智 正典	6	41	22	12	81	いわき市地区
4 会津若松市地区有功会	S46.5.26	小野 隆市	62	10	0	0	72	会津若松市地区
5 喜多方市地区有功会	S49.10.28	小関 俊男	183	0	0	0	183	喜多方市地区
6 田村市地区有功会	H18.3.23	桑原 修	7	0	15	2	24	田村市地区
7 相馬市地区有功会	H13.11.22	猪又 輝雄	2	3	0	0	5	相馬市地区
8 伊達地方有功会	H6.3.24	浅野 榮	11	2	31	2	46	伊達市地区
9 安達地方有功会	S44.2.15	佐藤 興司	30	15	31	0	76	二本松市地区
10 県中地区有功会	H17.6.16	遠藤 臣一	21	4	0	0	25	県中地区
11 会津地区有功会	H18.5.31	鈴木 政英	79	13	100	214	406	会津地区
12 南会津地区有功会	S47.4.5	渡部進一郎	22	5	3	10	40	南会津地区
13 相馬地方有功会	S41.9.3	濱田 幸政	15	11	0	0	26	相 双 地 区
14 双葉地方有功会	H6.4.19	菊地 政子	9	1	0	0	10	相 双 地 区
15 猪苗代町分区有功会	H3.1.29	大坂 恭一	21	0	25	38	84	猪苗代町分区
合 計			516	195	266	278	1,255	



5 日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等

名 称	月 日	会 場	参加者（人）
①県有功会連合会総会	6月25日(火)	福 島 市	各地区有功会長他32
②名誉副総裁御歓迎御昼食会	7月18日(木)	福 島 市	有功会員29
③紺綬・有功会会長協議会総会	10月10日(木)～11日(金)	福 岡 市	事務局2
④福島県有功会員交流会	11月13日(水)	郡 山 市	台風第19号災害対応のため中止
⑤有功会運営協議会	令和2年3月6日(金)	福島県支部	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止

6 組織振興課関係会議・研修会等

名 称	月 日	会 場	参加者（人）
①地区分区担当課長・担当国会議	4月25日(木)	福 島 市	各担当課長・担当者63
②全国赤十字大会	5月22日(水)	東 京 都	明治神宮会館
③地区・分区新任担当者研修会	5月30日(木)	福島県支部	地区・分区担当者28
④地区長会議	令和2年1月20日(月)	福島県支部	副地区長等18

16 会計報告

① 令和元年度一般会計歳入歳出決算報告

福島県支部

(円)

収 入		支 出	
科 目 (項)	金 額	科 目 (項)	金 額
社 資 収 入	273,754,924	災 害 救 護 事 業 費	3,502,154,761
委 託 金 等 収 入	845,977	社 会 活 動 費	109,216,673
補助金及び交付金収入	49,999,971	国 際 活 動 費	1,149,000
災害義援金預り金収入	3,646,831,692	指定事業地方振興費	3,815,000
繰 入 金 収 入	4,815,000	地区分区交付金支出	47,019,860
貸付金償還金収入	6,660,000	社 業 振 興 費	35,863,950
雑 収 入	4,209,944	基盤整備交付金・補助金支出	670,000
前 年 度 繰 越 金	61,799,552	償 還 金 支 出	6,660,000
		積 立 金 支 出	200,367,254
		総 務 管 理 費	37,691,163
		資産取得及び資産管理費	5,228,335
		本 社 送 納 金 支 出	39,650,988
計	4,048,917,060	計	3,989,486,984
収 入 支 出 差 引 額	59,430,076		

② 令和元年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告

福島赤十字病院

収益の収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目 (項)	金 額	科 目 (項)	金 額
医 業 収 益	7,382,122,173	医 業 費 用	8,034,187,849
医 業 外 収 益	488,552,605	医 業 外 費 用	25,904,540
医療社会事業収益	2,090,319	医 療 奉 仕 費 用	104,045,023
付 帯 事 業 収 益	39,400,442	付 帯 事 業 費 用	37,345,485
特 別 利 益	0	特 別 損 失	72,539,967
		法 人 税 等	8,943,570
計	7,912,165,539	計	8,282,966,434
収 入 支 出 差 引 額	△370,800,895		

資本的収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目 (項)	金 額	科 目 (項)	金 額
固 定 負 債	147,774,456	固 定 資 産	157,988,475
資 産 売 却 収 入	0	借 入 金 等 償 還	242,195,304
そ の 他 資 本 収 入	252,409,323		
計	400,183,779	計	400,183,779
収 入 支 出 差 引 額	0		

17

日本赤十字社福島県支部役員名簿

(令和2年7月1日現在)

役職名	氏 名	公 職 名
支 部 長	内堀 雅雄	福島県知事
副支部長	井出 孝利	福島県副知事
監査委員	猪狩 正明	福島県法人会連合会長
//	横山 克英	会津若松市地区有功会副会長
//	村瀬 久子	元福島県保健福祉部長
本社理事	小櫻 輝	会社役員
代 議 員	小櫻 輝	会社役員
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長・ 日赤県支部有功会連合会長
//	星 光政	元福島県支部事務局長
//	濱田 幸政	相馬地方有功会長
//	越智 正典	いわき市地区有功会長・ 前日赤県支部有功会連合会長
//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長
評 議 員	山田 準	福島市健康福祉部長
//	高村 劼	福島市地区有功会理事
//	阿部 隆	福島市地区有功会理事
//	佐藤 和子	福島市平野赤十字奉仕団委員長
//	藤森佐智子	会津若松市健康福祉部長
//	弓田 忠男	会津若松市地区有功会理事
//	太田 健三	郡山市社会福祉協議会長
//	齋藤 吉男	郡山市献血推進協会会長代行・副会長
//	本田 文男	郡山市保健福祉部長
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長・ 日赤県支部有功会連合会長
//	強口 暢子	いわき市社会福祉協議会長
//	飯尾 仁	いわき市保健福祉部長
//	矢吹 仁孝	平地区保健福祉センター所長
//	高木のぶ子	いわき方部赤十字奉仕団連絡協議会長
//	伊藤 公一	白河市保健福祉部長
//	野崎 秀雄	須賀川市市民福祉部長
//	齋藤 勇	喜多方市社会福祉協議会長
//	今野 大	相馬市社会福祉協議会常務理事・事務局長
//	安齋 英雄	二本松市社会福祉協議会長
//	吉田 英一	田村市保健福祉部長
//	村上 勇一	南相馬市社会福祉協議会常務理事兼事務局長
//	斎藤 和彦	伊達市健康福祉部長

役職名	氏 名	公 職 名
評 議 員	坂上 清彦	本宮市保健福祉部長
//	太田 久雄	国見町長
//	澤村 和明	平田村長
//	大和田 昭	小野町長
//	久保木正大	泉崎村長
//	湯座 一平	棚倉町長
//	前後 公	猪苗代町長
//	押部源二郎	金山町長
//	渡部進一郎	南会津地区有功会会長
//	濱田 幸政	相馬地方有功会長
//	佐藤 功	広野町赤十字奉仕団委員長
//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長
//	芳見 弘一	福島民報社代表取締役社長
//	安齋 睦男	福島県社会福祉協議会副会長
//	中川 俊哉	福島民友新聞社代表取締役社長・編集主幹
//	糺田 祐子	青少年赤十字福島県指導者協議会長
//	越智 正典	いわき市地区有功会長・ 前日赤県支部有功会連合会長
支部参与	戸田 光昭	福島県保健福祉部長
//	境野 浩義	福島県保健福祉部保健福祉総務課長
//	花積喜代志	福島県保健福祉部社会福祉課長
//	持立 隆司	福島県保健福祉部業務課長
//	大島 幸一	福島県危機管理部長
//	角田 和行	福島県危機管理部災害対策課長
//	鈴木 淳一	福島県教育委員会教育長
//	本田 伸雄	福島県教育庁政策監
//	鈴木 基之	福島県教育庁社会教育課長
//	福地 裕之	福島県教育庁義務教育課長
//	星 光政	元日赤県支部事務局長
//	谷口 幸子	元日赤県支部事務局長
//	高萩 秀則	元日赤県支部事務局長
//	穴沢 正行	元日赤県支部事務局長
//	野崎 洋一	前日赤県支部事務局長

令和元年度日本赤十字社福島県支部現勢

(令和2年3月31日現在)

■沿革

明治22年(1889) 6月…日本赤十字社福島県委員部発足
 明治27年(1894) 1月…福島県委員部を福島支部と改称
 昭和18年(1943) 8月…福島療院開設
 昭和19年(1944) 8月…福島療院を福島赤十字病院と改称
 昭和27年(1952) 10月…日本赤十字社福島県支部と改称
 昭和37年(1962) 2月…福島赤十字病院移転新築
 昭和46年(1971) 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
 昭和46年(1971) 4月…福島県赤十字血液センター開設
 昭和56年(1981) 4月…福島県会津赤十字血液センター開設
 昭和61年(1986) 4月…福島県いわき赤十字血液センター開設
 昭和63年(1988) 11月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所開設
 平成10年(1998) 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
 平成10年(1998) 4月…福島県赤十字血液センター移転新築
 平成11年(1999) 11月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所開設
 平成13年(2001) 9月…福島県赤十字血液センター原町供給出張所開設
 平成18年(2006) 7月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所移転(リニューアル)
 平成23年(2011) 11月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
 平成24年(2012) 3月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所移転
 平成27年(2015) 6月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
 平成29年(2017) 2月…福島県赤十字血液センター郡山駅前出張所移転
 平成31年(2019) 1月…福島赤十字病院移転新築開院

■社員……………(個人) 3,674名、(法人) 920法人

■評議員……………39名

■役員 支部長 内堀 雅雄 副支部長 井出 孝利
 監査委員 3名 参与 15名

■施設及び職員

施設名	所在地	電話番号	職員数
日本赤十字社福島県支部	〒960-1197 福島市永井川字北原田17	024-545-7997	18名
福島赤十字病院	〒960-8530 福島市八島町7-7	024-534-6101	585名
福島県赤十字血液センター	〒960-1198 福島市永井川字北原田17	024-544-2550	62名
福島県赤十字血液センター会津出張所	〒965-0003 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-6	0242-24-6650	15名
福島県赤十字血液センターいわき出張所	〒970-8044 いわき市中央台飯野五丁目1-1	0246-29-5624	19名
福島県赤十字血液センター郡山駅前出張所(郡山駅前献血ルーム)	〒963-8002 郡山市駅前一丁目6番10号	024-925-2638	14名
福島県赤十字血液センター郡山供給出張所	〒963-8044 郡山市備前館一丁目132番地	024-927-5199	11名
福島県赤十字血液センター相馬供給出張所	〒976-0152 相馬市栗津字栗津18番地7	0244-35-6066	5名



■ 県市町村組織

	合計数	郡	市	町 村
地 区	19	6	13	—
分 区	108	—	62	46
計	127	6	75	46

■ 災害救護

救護班・救護員	8班・293名
無 線 局	基地局 2局、移動局 45局
救 援 車 両	11台
救 援 物 資 (在 庫 数)	毛布 4,297枚
	バスタオル 1,623枚
	緊急セット 2,980個
	安眠セット 14個
	タオルケット 100枚

■ 医療事業

施 設 名	福島赤十字病院
診 療 科 ・ 病 床 総 数	25科 296床
患 者 数	入院 92,029名／1日平均 251.0名
	外来 147,463名／1日平均 614.4名

■ 血液事業

献 血 者 数		血液製剤供給 (200mL 換算)	
成 分 献 血	24,720名	赤 血 球 製 剤	109,256単位
400mL 献 血	50,835名	血 漿 製 剤	29,408単位
200mL 献 血	1,790名	血 小 板 製 剤	111,760単位
合 計	77,345名	合 計	250,424単位

■ 青少年赤十字

幼 稚 園	13園	632名
小 学 校	428校	81,019名
中 学 校	218校	45,207名
高 等 学 校	38校	4,177名
特別支援学校	4校	299名
義務教育学校	2校	432名
合 計	703校	131,766名
研究推進指定校	小学校 2校、中学校 2校	

■ 赤十字奉仕団

地 域	107団	10,498名
青 年	5団	211名
特 殊	35団	1,265名
合 計	147団	11,974名
指 導 講 師	6名	

■ 講習・防災セミナー普及活動

	指 導 員	受講者数
救 急 法	113名	9,344名
水 上 安 全 法	16名	588名
幼 児 安 全 法	44名	605名
健康生活支援講習	26名	2,226名
防 災 セ ミ ナ ー		1,347名
合計 (重複除く)	141名	14,110名

■ 看護師養成

学 校	学 生 数
日本赤十字秋田看護大学	14名
日本赤十字看護大学	1名
日本赤十字北海道看護大学	1名
合 計	16名

■ 国際活動

第一ブロック 支部参加事業	総 額	7,000,000円 (1,134,000円)
	救急法普及支援事業	
	東ティモール	2,500,000円 (405,000円)
	ラオス	2,500,000円 (405,000円)
	青少年赤十字海外支援事業	
	ネパール	1,000,000円 (162,000円)
	バヌアツ	1,000,000円 (162,000円)

※ (内は福島県支部の負担金額)



福島県赤十字会館

日本赤十字社 福島県支部

TEL 024-545-7997

〒960-1197 福島県福島市永井川字北原田17

福島県赤十字血液センター

TEL 024-544-2550

〒960-1198 福島県福島市永井川字北原田17



周辺地図



- JR南福島駅より徒歩15分 福島県立明成高等学校西隣り
- 福島西インターより車で5分 福島方面に進み信号2つ目を右折



日本赤十字社キャラクター

ハートちゃん

日本赤十字社 福島県支部

〒960-1197 福島市永井川字北原田17

☐ 総務課	☎ (024) 545-7997	FAX (024) 545-7923
☐ 組織振興課	☎ (024) 545-7998	FAX (024) 545-7924
☐ 事業推進課	☎ (024) 545-7996	FAX (024) 545-7923

ホームページ <https://fukushima.jrc.or.jp>